



論 文 総 目 録

1 ~ 50 卷

## 凡 例

一、この総目録は、「史林」一〇五〇巻、及び「史林」の前身である「史学研究会講演集」一〇四集、「史的研究」「統史的研究」の、論説・叢説・研究ノート・資料紹介・学界動向・書評等、論文またはこれに準ずるものの総目録である。紹介（新刊紹介）・彙報・学界消息・会報の類は一切省略した。

二、論説・叢説・研究ノート・資料紹介等、掲載欄の区別は、煩をさけてすべて注記しなかつた。但し批評・書評のみは\*印を付して区別した。

三、巻末に、著者別に論文掲載誌の通巻号数を整理した索引を付した。ただし「史林」の通巻号数は二十七巻〜三十五巻においてずれがあり、また通巻の記載のない場合もあるので、巻数をもあわせ参照されたい。

史学研究會講演集第一冊 (明治41年9月)

平等院の裝飾模様就きて 武田 五一  
徳川時代の大阪市制 幸田 成友

史学研究會講演集第二冊 (明治42年9月)

宋学伝来の淵源 西村 時彦  
長白山附近の地勢及び松花江水源 小川 琢治

附完傾城地考 大谷 光瑞  
東洋史の研究に就きて 上村 觀光  
碧山日録の著者に就て 伊東尾四郎  
具原益軒と京都地方 幸田 成友  
具原益軒書翰

史学研究會講演集第三冊 (明治43年7月)

歴史哲学の諸問題 桑木 敬翼  
國語史上の一疑問東国方言沿革考 新村 出  
古裳里城出土亀甲の説明 富岡 謙蔵  
日本に伝はれる波斯文に就て 羽田 亨  
馬場正通の生涯及其の著書 附録 内田 銀蔵  
造幣策(馬場正通遺稿) 田中勘兵衛  
京都沿革につきていふ語

史学研究會講演集第四冊 (明治45年4月)

伊曾保物語考 上田 敏  
印度史研究資料に就いて 松本文三郎  
元禄時代の京都小説家 藤井 乙男

儒仏道三教葛藤史研究資料 高瀬武次郎  
鎌倉時代の布教と当時の交通 原 勝郎  
西魏の四面像に就いて 浜田 耕作  
因幡国綱代の正平古鐘 湯本 文彦

史的研究 (大正3年9月)

古代史研究の發展につきて 坂口 昶  
ンケルマンに就て 深田 康算  
樺太土人の話 中目 覚  
独逸訳 忠臣庫 藤代 禎輔  
郷土保存に就いて 石橋 五郎  
太上感応篇考 妻木 直良  
人類由来 浅井 法順  
伊勢潭流民の事蹟 新村 出

統史的研究 (大正5年2月)

倭寇に就て 幣原 坦  
張鷟の遠征 桑原 隲蔵  
徳川時代に於ける日本と暹羅との 内田 銀蔵  
關係に就きて 矢野 仁一  
茶の歴史に就て 川島元次郎  
元和航海記の研究

一卷一号(一号) (大正5年1月)

心永の外寇 三浦 周行  
支那に於ける天主教の保護權に就て 矢野 仁一

真番郡考 今西 龍

時代の趨勢と史家の任務 坂口 昶  
戦時の歐洲地理学会 小川 琢治  
壺井鶴翁に就て 林 森太郎

礼部志稿解題 内藤虎次郎  
\*「那珂通世遺書」を読む 桑原 隲蔵  
\*「城郭の研究」——大類伸著 内田 銀蔵

\*戦争勃発前の外交折衝 原 勝郎  
\*「敦賀郡誌」 三浦 周行

一卷二号(二号) (大正5年4月)

唯物史観と歴史法 藤井健治郎  
西遼建國の始末及び其の年紀 羽田 亨  
黄河水源問題 小川 琢治  
諷刺画にあらはれたるナポレオン 中村善太郎

藤原時代の容儀服飾に就て 江馬 務  
日本に於ける北辰北斗の信仰 清原 貞雄

「南洋」の意義 内田 寛一  
\*「征西將軍官」を読む 三浦 周行  
\*「趙汝适」——諸蕃志 桑原 隲蔵

\*柯劭忞の「新元史帖木兒伝」 桑原 隲蔵  
\*「朝鮮古蹟図譜」 今西 龍

一卷三号(三号) (大正5年7月)

波斯湾の東洋貿易港に就て 桑原 隲蔵  
遺物遺蹟上より見たる九州古代の 喜田 貞吉  
民族に就て

蘭書読局の創設

ザルツブルグ移住民

兵範記に就いて―自筆本の研究―

元代鈔法の得失と其結果

観音寺文書について―江州行代官

と湖水舟奉行―

朝鮮史の乘(一)

セリヌンテの石切場の遺跡

\*ピエトロ・オルシイ氏の「カウ

ール伝」を読む

\*「岐阜県産業史」神谷保朗編

一卷四号(四号) (大正5年10月)

清涼寺釈迦像に就て

小浜港の研究

宋代の層檀園について―勿巡・齋

廬和地・陀婆離離・眉路骨停及

び賈耽所伝の波斯湾西岸諸港―

ランプレヒトを憶ふ

日本出土の支那古鏡

朝鮮史の乘(二)

台湾旅行談

朝鮮半島西側の地貌

備中国箭田村大塚調査報告

ナイル河上の人

\*大類博士「西洋時代史観中世」

を読む

新村 出  
長 寿吉

西田直二郎  
有 高 巖

三浦 周行  
今西 龍

浜田 耕作

内田 銀蔵

三浦 周行

松本文三郎

三浦 周行

藤田 豊八

坂口 昂

富岡 謙蔵

今西 龍

内田 銀蔵

小川 琢治

梅原 末治

坂口 昂

植村清之助

\*「庄園制度之大要」吉田東伍著  
\*エルスワルス・ハンチングトン  
氏著「文明と気候」

二巻一号(五号) (大正6年1月)

古代における武士の名称と其の民

族的研究

和蘭伝来の洋画

エトルスキの遺跡と其の文化(上)

フンデルトシャフトの集団に就いて

水河問題に就きて

三國港について

憲台通記考証

朝鮮史の乘(三)

弘安役の新史料

\*津田左右吉氏著「文学に現はれ

たる我が国民思想の研究(貴族

文学の時代)」を読む

\*佐伯君の英訳景教碑を読む

\*「大宝令新解」窪美昌保著

昨年の史学地理学界

二巻二号(六号) (大正6年4月)

朝鮮の「倭寇」(上)

爪哇の氣候と住民の生活

隠れたる陽明学者―淵岡山先生

魚澄惣五郎

原 勝郎

喜田 貞吉

新村 出

浜田 耕作

植村清之助

中目 覚

牧野信之助

内藤虎次郎

今西 龍

中川 泉三

西田直二郎

桑原 隲蔵

高橋万次郎

三浦 周行

石橋 五郎

高瀬武次郎

三百年前日本と台湾との経済的関

係に就きて

第十七世紀に於ける英仏同盟及び

英国侵入計画に就て

考証学者としての伴信友翁(上)

エトルスキの遺跡と其の文化(下)

朝鮮史の乘(四)

春日版雕造考

木芽峠

宮崎県西都原古墳調査報告

元国書官印

\*古代に於ける東西交通に関する

近著

\*「鎌倉武士と禅」鷲尾順敬著

\*加藤繁氏著「支那古代田制の研

究」を読む

二巻三号(七号) (大正6年7月)

支那に於ける近世火器の伝来に就

て(上)

朝鮮の「倭寇」(下)

坂下事変の研究

「スメール」文化の研究

南朝の隠れたる勤王家―伊勢度会

氏(上)

考証学者としての伴信友翁(中)

内田 銀蔵

長 寿吉

阪倉篤太郎

浜田 耕作

今西 龍

大屋 徳城

山本 元

浜田 耕作

梅原 末治

石浜純太郎

坂口 昂

三浦 周行

岡崎 文夫

矢野 仁一

三浦 周行

井野辺茂雄

阿部 秀助

大西 源一

阪倉篤太郎

松永貞徳の父祖について

藤井 乙男

鳥茲・于闐の研究

羽田 亨

朝鮮史の葉(五)

今西 龍

\*「伊能忠敬―長岡半太郎監修―

小川 琢治

\*増補「東遼支那記」

桑原 隲藏

二卷四号(八号) (大正6年10月)

積迎と鑿と赭羯と虜軍

藤田 豊八

支那に於ける近世火器の伝来に就

矢野 仁一

て(下)

中学校に於ける西洋史教授に就て

新見 吉治

サー・キルリヤム・テムブル

内田 銀蔵

呂刑に見えたる皇帝

武内 義雄

考証学者としての伴信友翁(下)

阪倉篤太郎

南朝の隠れたる勤王家―伊勢度会

大西 源一

氏(下)

仁清焼及び鍋島焼に就ての疑問

吉沢 義則

朝鮮史の葉(六・完)

今西 龍

烟草の伝来に就て

川島元次郎

\*「肥後に於ける装飾ある古墳及

横穴」を読む

喜田 貞吉

三卷一号(九号) (大正7年1月)

文芸復興期の儒風(上)

三浦 周行

二十八宿の伝来を論ず

新城 新蔵

中学校に於ける歴史科の沿革並に

其教育的価値に就て

小西 重直

軌近に於ける東洋史学の進歩(七)

羽田 亨

平安朝神道の一側面

河野 省三

考古学の葉(二)

浜田 耕作

支那歴史遊記略(上)

松本文三郎

君府の思ひ出(上)

坂口 昂

慶長年間京都耶蘇信徒の墓碑

新村 出

加藤清正の間島進入に就て

竹内 栄喜

武者修行に就て(下)

下川 潮

昨年の史学地理学界

三卷二号(一〇号) (大正7年4月)

東洋古銅器の化学的研究

近重 真澄

文芸復興期の儒風(下)

三浦 周行

服飾に現はれたる室町時代の社会

的傾向

桜井 秀

高麗太祖の薨後に於ける王位継承

池内 宏

上の一悲劇

軌近に於ける東洋史学の進歩(下)

羽田 亨

考古学の葉(二)

浜田 耕作

画人伝説の解釈―光琳と破筆―

福井利吉郎

支那歴史遊記略(下)

松本文三郎

君府の思ひ出(下)

坂口 昂

度会家行の勤王に関する史料

大西 源一

武者修行に就て(中)

下川 潮

三卷三号(一一号) (大正7年7月)

泰辺記略の暖爾且伝

内藤虎次郎

京都南蛮寺典慶考

新村 出

敷の語義並に紳に就て

清水元太郎

平安朝文化と庶民階級(上)

西田直二郎

ヘンリ四世時代の独逸(上)―特

に都市の勃興に就いて―

植村清之助

真智上人時代の高田派と本願寺

牧野信之助

戦争地理学に与へたる世界戦争の

教訓

小川 琢治

考古学の葉(三)

朝鮮の白丁と我が傀儡子

浜田 耕作

海東高僧伝に就きて

喜田 貞吉

古文書の折紙に就て

今西 龍

武者修業に就て(下)

中村 直勝

「九桂草堂隨筆」を読む

下川 潮

\*穂積博士の「タブーと法律」に

つきて

楠 亮三郎

\*「橋本無尽の実際と学説」を読む

三浦 周行

三卷四号(一二号) (大正7年10月)

明時代に於けるマカオの貿易と其

繁栄に就て

矢野 仁一

都市としての鎌倉

川上 多助

休屠王の金人に就いて

羽溪 了諦

ビスマルクの研究と大戦

原 勝郎

支那古代石壁考

那波 利貞

善導大師の捨身往生は史実なりや

鹽田 宗恵

平安朝文化と庶民階級(下)

西田直二郎

ヘンリ四世時代の独逸(下)―特

に都市の勃興に就いて―

考古学の栞(四)

豊太閣の書状につきて

スエン・ヘデンのヒンデンブルグ

評

朝鮮慶州邑域に就て

地理上より見たる露國

\*「河内國府石器時代遺跡發掘報  
告」を読む

四卷一号(一三三號) (大正8年1月)

カンフウ問題殊にその陥落年代に

就いて

土一揆(上)

個体概念

戰國時代以後に於ける甲冑の変革

に就て(上)

韓國併合事情(上)

考古学の栞(五)

欧州西部戦場の地理觀

国栖の名義

ボンダムの思出

欧州の天候と戦場(上)

シカゴ大学に於ける歴史批判学に

ついて

施薬院

植村清之助

浜田 耕作

三浦 周行

藤代禎輔訳

小田 省吾

下田 礼佐

葛田 貞吉

葛田 貞吉

葛田 貞吉

桑原 隲藏

三浦 周行

西田幾多郎

江馬 務

小松 緑

浜田 耕作

小川 琢治

喜田 貞吉

長 寿吉

中目 覚

松本彦次郎

西田直二郎

\*「音図及手習詞歌考」を読む  
昨年の中世地理学界

四卷二号(一四四號) (大正8年4月)

化学より觀たる東洋上代の文化

土一揆(中)

中世の墳墓

五言詩發生の時期に対する疑問

戰國時代以後に於ける甲冑の変革  
に就て(中)

毛皮國本の國家(上)

韓國併合事情(中)

考古学の栞(六)

天満天神の信仰の変遷(上)

欧州の戦場と天候(下)

開宝勅版の宋版太蔵經に就いて

\*子爵田中阿歌磨君著「諏訪湖の  
研究」を読む

四卷三号(一五五號) (大正8年7月)

加羅疆域考(上)

土一揆(下)

豊太閣の文芸(上)

服忌制の変遷を論じ徳川初期の道  
徳史に及ぶ

戰國時代以後に於ける甲冑の変革  
に就て(下)

毛皮國本の國家(下)

吉沢 義則

近重 真澄

三浦 周行

高橋 健自

鈴木 虎雄

江馬 務

坪井九馬三

小松 緑

浜田 耕作

長沼 賢海

中目 覚

妻木 直良

小川 琢治

今西 龍

三浦 周行

渡辺 世祐

原 勝郎

江馬 務

坪井九馬三

韓國併合事情(下)  
考古学の栞(七)

天満天神の信仰の変遷(中)

東航雜誌

西比利亞の河川と北極海との連絡

航路(上)

書紀編纂千二百年記念陳列の日本  
書紀古鈔本に就きて

四卷四号(一六六號) (大正8年10月)

支那に於ける本草学の起源と神農

本草経

足利学校の盛時と西教宣伝

加羅疆域考(下)

豊太閣の文芸(下)

算賦に就いての小研究

チエルスキ族の興廃に就いて―羅馬帝國の対  
ゲルマニ政策に関する一研究―

旧鈔本毛詩殘卷跋

考古学の栞(八)

飯岡義斎

再び秦辺紀略に就て

天満天神の信仰の変遷(下)

徳川時代に於ける國学者対儒学者  
論争

西比利亞の河川と北極海との連絡

航路(下)

小松 緑

浜田 耕作

長沼 賢海

内田 銀蔵

内田 寛一

五卷一號(一七號) (大正9年1月)

葡萄牙のマカオ殖民地の起源(上) 矢野 仁一  
或る戦国武士の自叙伝(上) 一五  
木吉保の身自鏡の研究 三浦 周行

ローマンチック時代に於ける一書 坂口 鼎

年史家の生立(上) 石橋 五郎

独逸領土變動の意義 那波 利貞

白馬寺の沿革に關する疑問 桜井 秀

風俗史上より見たる後水尾上皇と 今西 龍

五卷二號(一八號) (大正9年4月)

加羅羣域考補遺 天沼 俊一

日本古建築研究の葉(一) 天沼 俊一

水戸学派の攘夷論 井野辺茂雄

弘法大師の入定説に就いて 喜田 貞吉

或る戦国武士の自叙伝(中) 三浦 周行

ローマンチック時代に於ける一書 坂口 鼎

五卷三號(一九號) (大正9年7月)

年史家の生立(下) 坂口 鼎

葡萄牙のマカオ殖民地の起源(下) 矢野 仁一

明治時代に就きて 古田 良一

元政壁書といふ文の事 藤井 乙男

茶山片影 西田直二郎

轉近の歴史哲学と社会哲学(上) 米田庄太郎

或る戦国武士の自叙伝(下) 三浦 周行

庄園制度崩壞の一例としての越前 國河口坪江庄の研究(上) 牧野信之助

流され玉 柳田 國男

元禄六年胆沢郡古切支丹類聚書上 齋藤 斐章

埃及旅行記(上) 松本文三郎

久原文庫蔵仮名東鏡 吉沢 義則

\*ラッファー氏の新著「シノ、イ  
ラニカ」に就いて 桑原 隨蔵

日本古建築研究の葉(三) 天沼 俊一

五卷四號(二〇號) (大正9年10月)

徳川幕府の耶教禁庄と儒者 新村 出

轉近の歴史哲学と社会哲学(下) 内藤虎次郎

庄園制度崩壞の一例としての越前 米田庄太郎

國河口坪江庄の研究(下) 牧野信之助

朝鮮役の繪巻問題 杉村勇次郎

埃及旅行記(下) 松本文三郎

經濟地理学上より観たる戦後の世 寺田 貞次

版籍奉還始末の研究(上) 沢田 章

明の万曆時代日本人のマカオ駆逐 矢野 仁一

に就て 志田 義秀

歌謡史上に於ける「雜芸」に就き 三木 清

歴史的現象評價の標準に就て 寺田 貞次

經濟地理学上より観たる戦後の世 松本文三郎

界(中) 橋川 正

瓜哇紀行(上) 橋川 正

北撰より発見したる切支丹遺物 \* James Bryce—South America. Observations and Impressions 原 勝郎

六卷一號(二二號) (大正10年1月)

日本古建築研究の葉(四) 天沼 俊一

界(上) 寺田 貞次

經濟地理学上より観たる戦後の世 天沼 俊一

日本古建築研究の葉(五) 天沼 俊一

版籍奉還始末の研究(中) 沢田 章

鄂曲及び今様について 志田 義秀

陳元賛と柔道の始祖 下川 潮

唐十道の研究 井上以智為  
 高句麗五族五部考 今西 龍  
 版籍奉還始末の研究(下) 沢田 章  
 世界史の使命(一) ルードキヒ・リース  
 坂口昂  
 安藤俊雄  
 松本文三郎  
 瓜哇紀行(下)  
 西印度ナーションックに於けるゴータ  
 ミーブトラ窟に就て(上)  
 沢村専太郎  
 \*リース博士「世界史」  
 日本古建築研究の栞(七) 天沼 俊一  
 六卷四号(二四号)(大正7年10月)  
 道鏡皇胤論 喜田 貞吉  
 金蚕考 浜田 耕作  
 卍字源流攷 附火・連火異同攷 那波 利貞  
 平安朝に於ける舞踊について(上) 桜井 秀  
 世界史の使命(中) ルードキヒ・リース  
 坂口昂  
 安藤俊雄  
 江馬 務  
 灰屋紹益  
 西印度ナーションックに於けるゴータ  
 ミーブトラ窟に就て(中) 沢村専太郎  
 欧米人の書ける日本史の栞(二) 牧 健二  
 七卷一号(二五号)(大正11年1月)  
 新羅骨品考 今西 龍

歴史の認識に就いて 田辺 元  
 清朝初期の畿嗣問題 内藤虎次郎  
 南北合体条件につきて 三浦 周行  
 世界史の使命(下) ルードキヒ・リース  
 坂口昂  
 安藤俊雄  
 松本文三郎  
 平安朝に於ける舞踊について(中) 桜井 秀  
 大塚退野の生涯と其の著書 今村 孝三  
 勸学院 松野 遵崇  
 \*常盤博士著「古賢の跡」を読む 武内 義雄  
 欧米人の書ける日本史の栞(二) 牧 健二  
 七卷二号(二六号)(大正11年4月)  
 古代支那の鉄器に就いて(上) 松本文三郎  
 聖覚を中心としたる親鸞と法然(上) 松本彦次郎  
 黄河河道変遷の地文学的考察 藤田 元春  
 平安朝に於ける舞踊について(下) 桜井 秀  
 興正菩薩寂尊の自叙伝について(上) 橋川 正  
 一感身覚正記の研究 古田 良一  
 幕末に於ける海軍の創設 牧 健二  
 欧米人の書ける日本史の栞(三) 牧 健二  
 昨年の史学地理学界世界  
 七卷三号(二七号)(大正11年7月)  
 世界大戦責任論 原 勝郎  
 古代支那の鉄器に就いて(下) 松本文三郎  
 聖覚を中心とせる親鸞と法然(中) 松本彦次郎

後淡海宮御宇天皇論(上) 喜田 貞吉  
 興正菩薩寂尊の自叙伝について(下) 橋川 正  
 一感身覚正記の研究 李 能和  
 朝鮮神教源流考(一) 神田喜一郎  
 旧鈔本慈鎮和尚伝  
 西印度ナーションックに於けるゴータ  
 ミーブトラ窟に就て(下) 沢村専太郎  
 日本ノビスマルク 甲 陰  
 海印寺大蔵経板に就て 菅野 銀八  
 欧米人の書ける日本史の栞(四) 牧 建二  
 七卷四号(二八号)(大正11年10月)  
 己改伴跋考 今西 龍  
 細金細工に就いて 浜田 耕作  
 支那人を指すタウガス又はタムガ  
 ジといふ称呼に就いて 桑原 隲蔵  
 聖覚を中心としたる親鸞と法然(下) 松本彦次郎  
 後淡海宮御宇天皇論(下) 喜田 貞吉  
 朝鮮神教源流考(二) 李 能和  
 獸首鏡に就いて 梅原 末治  
 欧米人の書ける日本史の栞(五) 牧 健二  
 八卷一号(二九号)(大正12年1月)  
 荘民の生活―特に伊賀黒田庄に關して― 中村 直勝  
 銅劍銅鐙に就いて(一) 梅原 末治



我が上代に於ける道家思想及び道

教について

戊戌の変法及び政変(上)

支那古代の地割について

徳川初期に於ける国内海運の発達

平安朝初期の女装及其社会的背景(上)

契沖阿闍梨の妙法寺記

口絵釈迦牟尼如来像法滅尽之記

解説

京都帝國大学新著の埃及古物

支那の記録に見えたるイスラム教

徒の猪肉食用禁制

朝鮮神教源流考(三)

欧米人の書ける日本史の栞(六)

八巻二号(三〇号) (大正12年4月)

維新前後に於ける外国貿易に就いて(上)

銅劍銅鉾に就いて(二)

戊戌の変法及び政変(中)

平安朝初期の女装及其社会的背景(下)

最近欧米史界管見(上)

青木昆陽伝補訂

朝鮮神教源流考(四)

欧米人の書ける日本史の栞(七)

黒坂 勝美

矢野 仁一

藤田 元春

古田 良一

桜井 秀

岩橋小弥太

羽田 亨

浜田 耕作

桑原 隨藏

李 能和

牧 健二

昨年の史学地理学界

八巻三号(三一号) (大正12年7月)

世界史上より見たるペウロの意義

近世初頭に於ける領民の移動について

暹羅の日本町(上)

維新前後に於ける外国貿易に就いて(下)

銅劍銅鉾に就いて(三)

戊戌の変法及び政変(下)

朝鮮神教源流考(五)

最近欧米史界管見(中)

欧米人の書ける日本史の栞(八)

完

八巻四号(三二号) (大正12年10月)

楊布攷

民族大移動に就いて

銅劍銅鉾に就いて(四)

ブリュッセルにおける第五回万国史学会

聖ヤコフ寺及び其埜域

朝鮮神教源流考(六) 完

最近欧米史界管見(下)

日本古建築研究の栞(八)

九巻一号(三三三号) (大正13年1月)

山谷 省吾

牧野信之助

新村 出

石橋 五郎

梅原 末治

矢野 仁一

李 能和

三浦 周行

牧 健二

天と祇と都連と

フレデリック二世の政治学説(上)

「十念極楽易往集」と藤原兼実の信仰に關する疑問

孝明天皇の聖蹟

鑿真和上の戒壇に就いて

銅劍銅鉾に就いて(五)

暹羅の日本町(下)

独逸史学の二大百年記念(上)

頼山陽の半面

欧米の古文書館(上)

日本古建築研究の栞(九)

九巻二号(三四号) (大正13年4月)

北畠親房の思想

フレデリック二世の政治学説(中)

銅劍銅鉾に就いて(六)

独逸史学の二大百年記念(下)

欧米の古文書館(中の一)

日本古建築研究の栞(十)

昨年の史学地理学界

九巻三号(三五号) (大正13年7月)

足利時代に於ける勅撰集編纂の特異の事情について

漢人の蒙地開墾に就いて(上)

明治初年の地方官會議(上)

羽田 亨

中村善太郎

大屋 徳城

松野 遵崇

松本文三郎

梅原 末治

新村 出

坂口 昂

北村寿四郎

三浦 周行

天沼 俊一

清原 貞雄

中村善太郎

梅原 末治

坂口 昂

三浦 周行

天沼 俊一

岩橋小弥太

矢野 仁一

藤井甚太郎

鎌倉時代の服飾変化とその社会的

背景(上)

桜井 秀

新井白石と復号問題

三浦 周行

フレデリック二世の政治学説(下)

中村善太郎

尋尊僧正と時勢(上)

牧野信之助

造幣局設立の由来及び其敷地に就いて

沢田 章

日本古建築研究の栞(十二)

天沼 俊一

九巻四号(三六号) (大正13年10月)

桃山襖絵の研究

大類 伸

象 銅劍銅鉢に就いて(七・完)

藤田 豊八

漠人の蒙地開墾に就いて(下)

梅原 末治

或る個人の花押に就いて

矢野 仁一

尋尊僧正と時勢(下)

中村 直勝

欧米の古文書館(中の一)

牧野信之助

\*陳垣氏の「元西域人華化考」を

三浦 周行

読む

桑原 隲蔵

日本古建築研究の栞(十一)

天沼 俊一

一〇巻一号(三七号) (大正14年1月)

古刀銘の研究

小川 琢治

古銀銅面考

浜田 耕作

尺の研究

藤田 元春

明治初年の地方官会議(中)

藤井甚太郎

契丹文字の新資料

羽田 亨

天文日記と大阪

橋川 正

ビスマルクの信仰と文化闘争

時野谷常三郎

蕨恒の年代に就いて—継体朝に於ける

大屋 徳城

る仏教伝来の観察—

三浦 周行

欧米の古文書館(下)

天沼 俊一

日本古建築研究の栞(二三)

天沼 俊一

一〇巻二号(三八号) (大正14年4月)

ポリビオスの史風(上)

原 随園

支那都邑の城郭と其の起原

那波 利貞

國境の研究(上)

下田 礼佐

明治初年の地方官会議(下)

藤井甚太郎

矢立の研究

種畑 雪湖

日本古建築の栞(一二)

天沼 俊一

一〇巻三号(三九号) (大正14年7月)

柳沢吉保の一面(上)

辻 善之助

旧藩内外遺儀処分(上)

沢田 章

ポリビオスの史風(中)

原 随園

國境の研究(下)

下田 礼佐

新出の法然上人絵伝に就いて

井川 定慶

大英博物館所蔵太平天国史料

内藤虎次郎

明治天皇御幼時の御重患に就いて

三宅 宗詮

日本古建築研究の栞(一五)

三宅 宗雄

天沼 俊一

一〇巻四号(四〇号) (大正14年10月)

支那史上に於ける公私債務の免除

加藤 繁

醍醐本語寺縁起所収「元興寺縁起」

喜田 貞吉

に就いて(上)

原 随園

ポリビオスの史風(下)

辻 善之助

柳沢吉保の一面(下)

沢田 章

旧藩内外遺儀処分(下)

武田 勝蔵

正徳信使改札の教諭原本に就いて

三浦 周行

Schäfer 教授と故 Adams 教授

所謂京都南蛮寺遺鐘の伝来に關する異説

新村 出

西歐羅巴の史的生活に於ける週期

エー・フオゲル

律 菅原憲抄訳

天沼 俊一

日本古建築研究の栞(一六)

天沼 俊一

一一巻一号(四一号) (大正15年1月)

近世女子結髪の淵源

高橋 健自

足利義政の政治と女性(上)

三浦 周行

醍醐本語寺縁起所収「元興寺縁起」

喜田 貞吉

に就いて(下)

喜田 貞吉

成吉思汗の挽歌に就いて

鶴淵 一

フェニキア語(又はカナン語)の

Alphabet の起源及びキーゼス

Inscription などに就いて

中原与茂九郎

三角縁神獸鏡年代考定上の一二の新資料に就いて

梅原 末治

日本海沿岸石器時代遺跡の地理学的考察(上)

小牧 実繁

西洋に於ける東洋の影響(特に中古期に於ける)(上)

ゲオルク・ヤコブ 宮崎市定抄訳

\*カーター氏著「支那に於ける印刷の起源」

桑原 薩蔵

日本古建築研究の栞(一七)

天沼 俊一

一一巻二号(四二号)(大正15年4月)

リヌクルゴス伝説とその文化史的意義(上)

原 隨園

江戸幕府の禁書政策(上)

中村喜代三

清朝の諸叛乱と支那叛乱の性質

矢野 仁一

足利義政の政治と女性(中)

三浦 周行

日本海沿岸石器時代遺跡の地理学的考察(下)

小牧 実繁

西洋に於ける東洋の影響(特に中古期に於ける)(中)

ゲオルク・ヤコブ 宮崎市定抄訳

日本古建築研究の栞(一八)

天沼 俊一

昨年の史学・考古学・地理学界

一一巻三号(四三号)(大正15年7月)

アメリカ発見前後の地図地球儀と

石橋 五郎

シバング(上)

川上 多助

平安朝時代に於ける荘園の組織(上)

藤田 元春

リヌクルゴス伝説とその文化史的意義(下)

原 隨園

江戸幕府の禁書政策(中)

中村喜代三

足利義政の政治と女性(下)

三浦 周行

新に発見されたカトリック教の宗論関係の二史料

桑原 薩蔵

神誓裁判について(上)

牧野信之助

西洋に於ける東洋の影響(特に中古期に於ける)(下)

ゲオルク・ヤコブ 宮崎市定抄訳

日本古建築研究の栞(一九)

天沼 俊一

一一巻四号(四四号)(大正15年10月)

刀伊の賊—日本海に於ける海賊の横行—

池内 宏

アメリカ発見前後の地図地球儀と

石橋 五郎

シバング(下)

平安朝時代に於ける荘園の組織(下)

川上 多助

江戸幕府の禁書政策(下)

中村喜代三

読書漫録

羽田 亨

賀名生の行宮について

大西 源一

神誓裁判について(下)

牧野信之助

日本古建築研究の栞(二〇)

天沼 俊一

一二巻一号(四五号)(昭和2年1月)

相州鍛冶系図考

小川 琢治

荘民の生活(再び)(上)—山城

宇田田原荘—

中村 直勝

仏典に頭はるる振旦の語に就いて(上)

松本文三郎

河内平野の古地理

小牧 実繁

日明貿易の発展につきて(上)

三浦 周行

健駄羅彫刻と六朝の泥像

浜田 耕作

唐の長安義寧坊の大秦寺の敷地に

関する支那地志類の記載に就いて(上)

那波 利貞

明治初年に於ける民事裁判の觀念

牧 健二

明治初年の団体擁護運動(上)

藤井甚太郎

日本と暹羅との貿易につきて

新村 出

歴史の研究(上)

新見 吉治

日本古建築研究の栞(二二)

天沼 俊一

一一巻二号(四六号)(昭和2年4月)

仏典に頭はるる振旦の語に就いて(下)

松本文三郎

日明貿易の発展につきて(下)

三浦 周行

カイゼルについての一新著 Emil Ludwig: Wilhelm der Zweite. Berlin, Ernst Rowohlt Verlag. (An English translation by E. C. Mayne. Putnam)

大村作次郎

唐の長安義寧坊の大秦寺の敷地に

関する支那地志類の記載に就いて(下)

那波 利貞

明治初年の国体擁護運動(下)

歴史の研究(下)

日本古建築研究の栞(二二)

昨年の史学・考古学・地理学界

二巻三号(四七号)(昭和2年7月)

ソフィストと其の時代(上)

地理学の性質について

長安の青龍寺の遺址に就いて

馬鳴信仰と養蚕機織

京都帝国大学所蔵ウルク国王イン

ガシドの粘土板碑文の解説と

解説 中原与茂九郎

文久三年八月に於ける七藩の直奏

に就いて

鎌倉時代に於ける吏僚生活の一面

西洋古代郵制の発達

日本古建築研究の栞(二三)

二巻四号(四八号)(昭和2年10月)

明の四夷館に就いて

西陣撰糸仲買仲間の研究—本庄博

士「西陣研究」の批判—

ソフィストと其の時代(下)

再び法然聖人絵に就て

宇治茶園史概説

百姓一揆の地方的分布に就て

藤井甚太郎

新見 吉治

天沼 俊一

原 随園

小野 鉄二

桑原 隨藏

橋川 正

松野 遊崇

桜井 秀

三井 高陽

天沼 俊一

神田喜一郎

沢田 章

原 随園

井川 定慶

藤田 元春

黒正 崧

羅馬の駅制

\*「島根県史」其他

日本古建築研究の栞(二四)

三巻一号(四九号)(昭和3年1月)

股人の分布と其の径路に就いて(上)

清初に於ける清鮮関係と三田渡の

碑文(上)

近世史学史上に於ける国学の貢獻

黎軒と大秦

風俗の流行と変移とに就て

漢代の駒射狩獵図紋に就いて

中古に於ける宇佐神人の活動(上)

\*カトリック研究の勃興 戸塚文

脚訳「カトリック思想史」

日本古建築研究の栞(二五)

三巻二号(五〇号)(昭和3年4月)

歴史の認識に於ける概念の機能

清初に於ける清鮮関係と三田渡の

碑文(中)

故坂口博士の学歴とその学界に於

ける業績(上)

中古に於ける宇佐神人の活動(中)

日本古建築研究の栞(二六)

三井 高陽

三浦 周行

天沼 俊一

小川 琢治

鴛淵 一

村岡 典嗣

藤田 豊八

江馬 務

原田 淑人

西岡虎之助

坂口 昂

天沼 俊一

田辺 元

鴛淵 一

中村善太郎

西岡虎之助

天沼 俊一

三巻三号(五一号)(昭和3年7月)

ペリー渡米の際に於ける国論の帰趨

清初に於ける清鮮関係と三田渡の

碑文(下の二)

大嘗宮の中垣に就いて

松尾神社本殿の遺墨につきて

独關交通の先駆としてのミユンス

ター公僧正領の駅制

徳川家育の教諭三章と文政の関東

向取締

中古に於ける宇佐神人の活動(下の二)

故坂口博士の学歴とその学界に於

ける業績(下)

日本古建築研究の栞(二七)

三巻四号(五二号)(昭和3年10月)

刀剣目録の源流 附相州鍛冶補考

名古屋藩に於ける律令学の考察

—稲葉通邦を中心として—

貨狄像伝来径路の想定

清初に於ける清鮮関係と三田渡の

碑文(下の二)

大戦後公表されし重要な国際関

係史料について

井野辺茂雄

鴛淵 一

出雲路通次郎

阪谷良之進

三井 高陽

樋畑 雲潮

ネフアティティ像とアマルナ彫刻  
とに就て

賈代南都アジア瞥見

中古に於ける宇佐神人の活動(下)

(二)

日本古建築研究の栗(二八)

一四卷一号(五三三号)(昭和4年1月)

近世の生んだ二大史家

支那古典の年代に就て

中世文化の基調

メンデルスゾーンと其の改革事業

伯林懐古

日本古建築研究の栗(二九)

一四卷二号(五四四号)(昭和4年4月)

一八六六年六月十二日埃仏密約に  
関する一考察

南朝貴族制の起源、並に其成立に  
到りし迄の経過に就ての若干の

考察

江南の民屋(上)

硬化法を用ゐて修理せる浮石寺の  
壁画

日本古建築研究の栗(三〇)

昨年の史学・考古学・地理学界

近重 真澄

天沼 俊一

岡島誠太郎

佐伯 義明

西岡虎之助

天沼 俊一

三浦 周行

新城 新藏

平泉 澄

菅原 憲

阪倉篤太郎

天沼 俊一

時野谷常三郎

岡崎 文夫

藤田 元春

近重 真澄

天沼 俊一

一四卷三号(五五号)(昭和4年7月)

園分寺の裏類に就いて  
イギリスの支那派遣使節アマース  
ト(Lord Amhurst)の使命失

敗に就いて

評論新聞に見えたる社会法律思想

似絵の名人豪信法印の研究(上)

無姓の百姓(上)

江南の民屋(下)

カチガラについて

日本古建築研究の栗(三一)

一四卷四号(五六号)(昭和4年10月)

一八六九年に於ける仏埃伊三國同  
盟の研究

似絵の名人豪信法印の研究(中)

無姓の百姓(下)

清代福建江蘇の船行に就いて

ゲッテンゲン市の郵制

埴輪土物の配置に就いて

林羅山とその史学

日本古建築研究の栗(三二)

一五卷一号(五七号)(昭和5年1月)

支那古銅器研究に対する一考察

初期の馬借集団

魚澄惣五郎

矢野 仁一

健二

牧野 秀穂

喜田 貞吉

藤田 元春

駒井 義明

天沼 俊一

大村作次郎

栗野 秀穂

喜田 貞吉

加藤 繁

三井 高陽

島田 貞彦

肥後 和男

天沼 俊一

梅原 末治

牧野信之助

大塚 武松

下田 礼佐

近重 真澄

三喜田熊蔵

天沼 俊一

石田幹之助

大塚 武松

大塚 武松

応仁乱後の反動運動

三浦 周行

カントン貿易の研究(上)

番漢合時掌中珠

ダンテの地上樂園

古代埃及人の歴史観と記録とに就  
いて

明治初年の宗教的農民一揆

中世独逸に於ける政教関係の歴史  
的考察(上)

日本古建築研究の栗(三三)

一五卷二号(五八号)(昭和5年4月)

文久元年に於ける外國公使江戸退  
去問題に就て(上)

カントン貿易の研究(下)

漢鏡の成分及其複製

中世独逸に於ける政教関係の歴史  
的考察(中)

日本古建築研究の栗(三四)

昨年の史学・考古学・地理学界

「胡旋舞」小考

文久元年に於ける外國公使江戸退  
去問題に就て(下)

所謂貞応の廻船式目の製作年代一

三浦 周行

下田 礼佐

石浜純太郎訳

大類 伸

岡島誠太郎

黒正 巖

三喜田熊蔵

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

住田法学士の説に就て―

モヘンジョ・ダロの発掘

前漢匈奴地名略攷

日本古建築研究の栞 (三三五)

一五巻四号 (六〇号) (昭和5年10月)

維新前後の基督教問題と思想統一

運動 (上)

唐の三省

新羅の姓氏に就いて

羅馬教皇死大友宗麟書狀に就いて

ベラスゴイ (上)

山城幡枝翁見の瓦窯址―延喜式に

見えたる栗栖野瓦屋―

欧米史界の思出

中世独逸に於ける政教關係の歴史

的考察 (下)

日本古建築研究の栞 (三二六)

一六巻一号 (六一号) (昭和6年1月)

高麗尹璠九城考―特に英雄二州の

遺址に就て (上)

足利時代に於ける上流武士の公私

生活―大攝持房行狀の研究―

維新前後の基督教問題と思想統一

運動 (下)

古田 良一

後藤 守一

駒井 義明

天沼 俊一

徳重 浅吉

内藤 乾吉

三品 彰英

新村 出

浜田 耕作

吉原 好人

木村捷三郎

三浦 周行

三喜田熊蔵

天沼 俊一

稲葉 岩吉

三浦 周行

徳重 浅吉

明治初年の教育制度とその精神 (上)

高橋 俊傑

宋代の太学生生活 (上)

宮崎 市定

ベラスゴイ (下)

吉原 好人

日本古建築研究の栞 (三三七)

天沼 俊一

一六巻二号 (六二号) (昭和6年4月)

中世産銅史考

豊州天徳軍の位置について

新井白石と利瑪竇 附・世界屏風

図考 (上)

高麗尹璠九城考―特に英雄二州の

遺址に就て (下)

伊藤満所の二書翰

サラセン文化とネストリウス派

東廻海運に就て

去來墓の所在地に就て

明治初年の教育制度とその精神 (中)

日本古建築研究の栞 (三三八)

高橋 俊傑

天沼 俊一

一六巻三号 (六三三号) (昭和6年7月)

コッスートの政治思想

筑前国井原翁見鏡片の複製

史観殊に唯物史観の批判と科学的

史観の提唱

大物主神について

新井白石と利瑪竇 附・世界屏風

藤田 元春

図考 (下)

伝クセノボン、アテナイ人の國家

(上)

日本古建築研究の栞 (三三九)

村田敦之亮

天沼 俊一

一六巻四号 (六四号) (昭和6年10月)

アピアス「コスモグラフィア」

の書誌的研究

テオデリツヒのイタリア支配

印度の博物館

明治初年の教育制度とその精神 (下)

高橋 俊傑

宮崎 市定

宋代の太学生生活 (下)

伝クセノボン、アテナイ人の國家

(下)

日本古建築研究の栞 (四〇〇)

村田敦之亮

天沼 俊一

一七巻一号 (六五号) (昭和7年1月)

ティペリウス・グラックスの運動

に就いて

筑後川下流平野の開墾 (上)

宋代榷茶開始年代考 附三説法

鎌倉幕府に於ける支配精神の変遷

北台湾に於ける西・蘭両國の角逐

井上 智男

米倉 二郎

曾我部静雄

藤 直幹

幣原 坦

稲葉 岩吉

島田 貞彦

長門向津具久津出土の飾柄銅劍

小野 鉄二

鈴木 成高

橋川 正

高橋 俊傑

宮崎 市定

村田敦之亮

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

天沼 俊一

小川 五郎  
一七卷二号(六六号) (昭和7年4月)

春秋時代に於ける叛と奔との意義  
筑後川下流平野の開発(下)  
米倉 二郎

古代に於ける君主崇拜の意義―帝  
国主義的イデオロギーとして―中原与茂九郎

東大寺領美濃国大井荘(上)  
青新直後の北海道拓殖について  
大戦後公表されし重要な国際関  
係史料について  
大村作次郎

新「華夷訳語」に就いて  
ワルター・フックス  
鶴淵 一  
村上 嘉実 訳

一七卷三号(六七号) (昭和7年7月)  
普壇戦役当時ビスマルクの外交に  
及ぼせるプロシア後宮の影響  
時野谷常三郎

司馬遷と班固  
舒爾哈齊の死―清初内紛の一齣―  
鴛淵 一

撰関家の大番役及び大番領の研究  
(上)  
牧 健二

東大寺領美濃国大井荘(下)  
京都帝國大学所蔵卷子本三長記に  
就いて  
赤松 俊秀

我國上代風俗と印度古典  
足利 惇氏

一七卷四号(六八号) (昭和7年10月)

古代埃及第十二王朝の社会状態に  
就て―中産階級の抬頭に及ぶ―  
近世に於ける学問の新傾向  
岡島誠太郎

後漢光武帝の対南匈奴策に就て  
(上) 匈奴分裂以前の後漢・匈  
奴の交渉  
吉田 三郎

慈恩伝の成立に就いて  
撰関家の大番役及び大番領の研究  
(下)  
内田 吟風

一八卷一号(六九号) (昭和8年1月)  
青年結社殊にシヨン会起原の説(上)  
長 寿吉

祇救壇記  
石見銀山の研究―前期に於ける―  
古代朝鮮に於ける王者出現の神話  
と儀礼に就て―日鮮降臨神話の  
研究―(上)  
神田喜一郎

後漢光武帝の対南匈奴策に就て  
(下) 匈奴の分裂と光武帝の南  
匈奴統御  
小葉田 淳

中世に於ける、Antique Modern  
Spirit”に就て  
三品 彰英

法顯伝に於ける二三の記事に就  
いて  
内田 吟風

一八卷二号(七〇号) (昭和8年4月)  
古代支那賦税制度(上)  
朝日 融彦

足利 惇氏

宮崎 市定

ユダス・マカベウスの叛乱  
ハンムラビ時代に於ける共同経営  
体制としての tappatum に就  
いて  
水川 温二

褚英の死に就いて―満文老檔研究  
の一齣―  
鴛淵 一

近世初頭に於ける巨石運搬法の考  
察  
斎藤 忠

青年結社殊にシヨン会起原の説(下)  
長 寿吉

古代朝鮮に於ける王者出現の神話  
と儀礼に就て―日鮮降臨神話の  
研究―(中)  
三品 彰英

初期の名田について  
一八卷三号(七一号) (昭和8年7月)  
清水 三男

オリントスの陥落(上)  
西夏紀年考(上)  
原 隨園

古代朝鮮に於ける王者出現の神話  
と儀礼に就て―日鮮降臨神話の  
研究―(下)  
長部 和雄

古代支那賦税制度(中)  
蓮如とその時代の民衆  
道教発生事情に関する一考察  
三品 彰英

一八卷四号(七十二号) (昭和8年10月)  
覚信尼に就いて  
宮崎 市定

鎌倉武家社会に於ける家族の一考  
佐中 壮

察

アレクサンドロス大王と希臘世界

藤 直幹

(上)

オリントスの陥落 (下)

井上 智勇

西夏紀年考 (下)

原 隨園

古代支那賦稅制度 (下)

長部 和雄

英國と羅馬法 (上)

宮崎 市定

一九卷一號 (七三三號) (昭和9年1月)

B・C・三〇二年へラス連盟條約

(碑文)の研究 (上)

粟野頼之祐

支那歴史的思想の起源

内藤虎次郎

大教宣布運動に於ける天神造化説

徳重 浅吉

アレクサンドロス大王と希臘世界

(下)

井上 智勇

近世北海道に就ける商業資本の発

展

森 義雄

北平図書館所蔵貝勒尚善の吳三桂

に与へし手紙に就いて

山本 守

英國と羅馬法 (下)

戸倉 広

一九卷二號 (七四四號) (昭和9年4月)

戦國武將、禪、その意義

柏倉 亮吉

明末清初の鮮満關係上に於ける日

本の地位 (一)

浦 廉一

後漢末期より五胡亂動発に至る匈

奴五部の状勢に就て

内田 吟風

武士の階級的自覚

B・C・三〇二年へラス連盟條約

池内 義資

(碑文)の研究 (下)

粟野頼之祐

中世末紀に於けるイングランドの

天変による労働法の变化と革命

朝日 融溪

神戸に關する一二の考察

福尾猛市郎

一九卷三號 (七五五號) (昭和9年7月)

水銀の外國貿易國內産出と産業発

達との關係

小葉田 淳

唐代貴人に就いての一考察

宇都宮清吉

支那の青銅器時代に就いて (上)

梅原 末治

明末清初の鮮満關係上に於ける日

本の地位 (二)

浦 廉一

一九卷四號 (七六六號) (昭和9年10月)

後醍醐天皇宸影に就いて

出雲路通次郎

宋代商稅考

加藤 繁

神の言語と人の行為

勝谷 透

ギリシア史におけるエーゲ海権の

意義—ベルシアシア戦役以後におけ

るペルシアアギリシア両民族抗争

村田教之亮

の一場面として

今西 春秋

明の起居注に就いて

岩本 裕

笈多紀元の問題

岩本 裕

北平奉天故宮所蔵の蒙古源流に就

いて—併せて故内藤博士遺業の

一斑に就いて—

鴛淵 一

西班牙絵画に於ける文芸復興

須田国太郎

二〇卷一號 (七七七號) (昭和10年1月)

澶淵の盟約と其の史的意義 (上)

秋貞 実造

北海道開拓の初期に於ける外人の

工作 (上)

牧野信之助

天津教案に就いて

野村 政光

真宗絵系図雜攷

向井 芳彦

伊勢國の経塚

佐藤 虎雄

満洲國熱河建平県発見の古銀銅面

ルーテル初期の宗教的転向期に就

て

古代の和泉地方に關する二三の歴

史地理的考察

「明の起居注に就て」補正

米倉 二郎

二〇卷二號 (七八八號) (昭和10年4月)

ドイツに於けるギリシヤ愛護主義

今西 春秋

の運動に就て (一八二一—一八

二九)

封建制度の起源と本質 (上)

金子 光介

北海道開拓の初期に於ける外人の

工作 (下)

鈴木 成高

支那の青銅器時代に就いて (中)

牧野信之助

澶淵の盟約と其の史的意義 (中)

梅原 末治

自然環境の歴史思考の生成

秋貞 実造

高瀬 重雄



「北平奉天故宮所蔵の蒙古源流に就いて」を読む

山本 守

二〇巻三号（七九号）（昭和10年7月）

清三朝実録の纂修（上）

今西 春秋

北海道開墾殖民の発展と其社会的背景（上）

森 義雄

唐鈔本唐令の一遺文（一）

那波 利貞

五胡乱及び北魏に於ける匈奴旧港及其日琉兩國との交渉について

小葉田 淳

滿洲語 Nikan の意義

山本 守

二〇巻四号（八〇号）（昭和10年10月）

支那の青銅器時代に就いて（下）

梅原 末治

封建制度の起源と本質（下）

鈴木 成高

唐鈔本唐令の一遺文（二）

那波 利貞

北海道開墾殖民の発展と其社会的背景（下）

森 義雄

清三朝実録の纂修（下）

今西 春秋

瀛淵の盟約と其の史的意義（下）

秋貞 実造

「アレント漂浪記」の史料的价值

時野谷常三郎  
岡崎 文夫

新唐書に就て  
古代朝鮮の祭政と殺靈信仰に就いて

て―我が瑞穂国古代研究への序として―（上）

三品 彰英

行幸の鹵簿と神幸の列次

史記劄記

但馬の伊達氏に就て

源頼朝に対する評論

二二巻二号（八二号）（昭和11年4月）

キロンの叛乱とその年代

類聚国史に就いて

古代朝鮮の祭政と殺靈信仰に就いて

―我が瑞穂国古代研究への序として―（中）

我が国原古に於ける「カミ」に就いて―特に高砂族及び南方民族より見たる土俗学的考察―（上）

徳川時代大阪商人の商魂―主として海保青陵の著書を通じて見たる―

イスパニヤ法制史上に於ける羅馬法の使命

シーボルト先生の追憶 (Seibold-Erinnerungen) エフ・エム・トラウツ

日向の二日旅―伊東満所が母の事ども―

二二巻三号（八三号）（昭和11年7月）

三品 彰英

宮崎 市定

時野谷 勝

牧 健二

原 随園

坂本 太郎

三品 彰英

鈴木 謙

有働 研造

戸倉 広

濱田 青陵

民国国家確立の一過程（上）  
如墨委面考

唐鈔本唐令の一遺文（三）

古代朝鮮の祭政と殺靈信仰に就いて

―我が瑞穂国古代研究への序として―（下）

並河誠所の五畿内志に就いて（上）

波斯「エズド」に於ける拜火教の現況

二二巻四号（八四号）（昭和11年10月）

ボーリングブローク子と史学説

美術史学の立場

唐鈔本唐令の一遺文（四・完）

並河誠所の五畿内志に就いて（下）

我が国原古に於ける「カミ」に就いて―特に高砂族及び南方民族より見たる土俗学的考察―（下）

森尚謙と護法資治論

二二巻一号（八五号）（昭和12年1月）

魏志倭人伝管見

戦国時代に於ける東海道吉原駅の組織―併せて一升勸進に就いて

我が国土観の変遷

唐代に於ける一禁令の解釈に就いて

西井 克己

藤田 元春

那波 利貞

三品 彰英

室賀 信夫

足利 惇氏

千代田 謙

井島 勉

那波 利貞

室賀 信夫

鈴木 謙

前田 一良

小野 勝年

稲葉 岩吉

伊東 只人

内田 秀雄

小野 勝年

小野 勝年

小野 勝年

京都府小学校会社の仕法に就いて  
近江商人の発生とその発展に就いて  
て(上)

寺尾 宏二  
福尾猛市郎

戦術史上に於けるニコロ・マキア  
ヴェルリの地位に就て

柴山 英一

江戸時代に於ける芸団の組織とその  
統制—近江国蟬丸神社を中  
心として—

渡部 多伸  
米倉 二郎

福州の琉球館

福州の琉球館

西方アジアに於ける考古学的活動  
(上) 一九三一年—一九三四年

福尾猛市郎  
福尾猛市郎

近世文化と牢人(上)  
唐代の漕運

栗田 元次  
外山 軍治

英国側から見たフランス総裁政府  
のアイランド侵入

時野谷常三郎

近江商人の発生とその発展に就いて  
(下)

福尾猛市郎

室町時代における丹波地方  
鉄利の住地に就て

魚澄惣五郎  
小川 裕人

西方アジアに於ける考古学的活動  
(中) 一九三一年—一九三四年

福尾猛市郎  
福尾猛市郎

西方アジアに於ける考古学的活動  
(下) 一九三一年—一九三四年

福尾猛市郎  
福尾猛市郎

神道の基本的性格  
魏書序紀特に其世系記事に就て

柴田 実

—志田不動鷹学士「代王世系批  
判」を読む—  
近世文化と牢人(下)  
国民国家の確立の一過程(下)  
ペリー渡来前後に於ける対外国民  
思想の考察(上)

内田 吟風  
栗田 元次

明治初年の備荒救恤機関の二三に  
就いて—旧足柄東の義倉と小  
菅・大津両県の報恩社—

寺尾 宏二  
足利 淳氏

「ベルセポリス」と「スーサー」  
史通の六家二体の論に就いて

内藤 戊申

アウグステイヌスとその時代  
魏志倭人伝に見えた伊蘇志の一族  
莊園發達過程の一考察  
遼陽喇嘛墳碑文の解説補正  
松平容保の進退に就て

鈴木 成高  
藤田 元春  
田井 啓吾  
篠淵 一

レヴィアタン(Levathan)の政  
治思想的意義  
ペリー渡来前後に於ける対外国民  
思想の考察(下)

江坂長四郎  
赤尾 藤市

西方アジアに於ける考古学的活動  
(上) 一九三一年—一九三四年

福尾猛市郎  
福尾猛市郎

西方アジアに於ける考古学的活動  
(下) 一九三一年—一九三四年

福尾猛市郎  
福尾猛市郎

清初旗地に関する滿文老檔の記事  
(上)

篠淵 一

普通唱導集について(上)  
セバステに於て殉教せる四十人の  
軍人に対する崇敬の歴史  
北支那石窟構造論  
オナリス(Onaris) カサラリス  
(Sarranis) か

水川 温二  
水野 清一

豊臣秀吉の側室松丸殿の生涯  
魏初に於ける契丹勿吉間の諸部族  
に就いて  
曼荼羅的表現の意味  
唐古遺跡の調査概要

小川 裕人  
上野 照夫  
末永 雅雄

仏蘭西史学史に於ける中世研究の  
意義  
唐代の杜邑に就きて(上)  
南宋時代の和買絹及び折帛銭の研  
究(上)

長 寿吉  
那波 利貞

清初旗地に関する滿文老檔の記事  
(下)  
武家故実の構造—室町武家社会研  
究の一課題—  
普通唱導集について(下)  
揚子江三角洲平野の開發とクリ  
クの展開

篠淵 一  
藤 直幹  
村山 修一  
米倉 二郎

清初旗地に関する滿文老檔の記事  
(上)

篠淵 一

普通唱導集について(上)  
セバステに於て殉教せる四十人の  
軍人に対する崇敬の歴史  
北支那石窟構造論  
オナリス(Onaris) カサラリス  
(Sarranis) か

水川 温二  
水野 清一

豊臣秀吉の側室松丸殿の生涯  
魏初に於ける契丹勿吉間の諸部族  
に就いて  
曼荼羅的表現の意味  
唐古遺跡の調査概要

小川 裕人  
上野 照夫  
末永 雅雄

仏蘭西史学史に於ける中世研究の  
意義  
唐代の杜邑に就きて(上)  
南宋時代の和買絹及び折帛銭の研  
究(上)

長 寿吉  
那波 利貞

清初旗地に関する滿文老檔の記事  
(下)  
武家故実の構造—室町武家社会研  
究の一課題—  
普通唱導集について(下)  
揚子江三角洲平野の開發とクリ  
クの展開

篠淵 一  
藤 直幹  
村山 修一  
米倉 二郎

二二卷二号(八六号) (昭和12年4月)

二二卷四号(八八号) (昭和12年10月)

二三卷一号(八九号) (昭和13年1月)

二三卷二号(九〇号) (昭和13年4月)

二三巻三号(九一号) (昭和13年7月)

飛鳥時代の芸術

家領の伝領に就いて(上)

イニス伝の史料について

成立期の近代国家(上)

唐代の社邑に就いて(中)

南宋時代の和買絹及び折帛銭の研

究(下)

遺物―その基礎的構造

二三巻四号(九二号) (昭和13年10月)

東本願寺の独立について

シルレルの史劇と歴史

家領の伝領に就いて(下)

唐代の社邑に就いて(下)

ハリス来朝当時における対外思想

に就いて

若狭太良荘に於ける鑄鐘に就いて

増訂清文鑑の異版に就いて

二四巻一号(九三号) (昭和14年1月)

日唐通交に於ける圖書問題につ

て

平安時代に於ける怨霊の思想

条支と大秦と西海

ラティフンディアの成立と経営

東伏見邦英

中村 直勝

山谷 省吾

中山 治一

那波 利貞

曾我部静雄

中村 清兄

辻 善之助

内山貞三郎

中村 直勝

那波 利貞

赤尾 藤市

赤松 俊秀

今西 春秋

板沢 武雄

肥後 和男

宮崎 市定

(上)

高句麗の墓制に就いて

西川如見と其の地理学

史観と史体

明治元年堺に於ける仏国水兵殺害

事件

所謂渤海靺鞨に就いて

二四巻二号(九四号) (昭和14年4月)

割地問題の一掃結

漢代に於ける家と豪族

ラティフンディアの成立と経営(下)

伴大納言絵詞に就いて(上)

京都妙蓮寺藏後深草天皇宸翰御消

息に就いて

自筆本「見聞談叢」に就いて

大同江下流の先史地理

梧野里出土と推定せられる一群の

遺物

二四巻三号(九五号) (昭和14年7月)

仏教信仰に基きて組織せられたる

中晩唐五代時代の社邑に就きて

(上)

六国史記述の体と日記について

歴史学の現代性

唐宋時代に於ける福建省の開発に

井上 智勇

梅原 末治

内田 秀雄

丹羽 正義

赤尾 藤市

小川 裕人

牧野信之助

宇都宮清吉

井上 智勇

源 豊宗

赤松 俊秀

亀井 伸明

三友国五郎

梅原 末治

那波 利貞

池田 源太

西井 克己

関する一考察

宋代の弓箭社に就いて

Deutschum と Territorium

羽後角間崎遺跡の土器

二四巻四号(九六号) (昭和14年10月)

徳川初期に於ける商業仲間の発生

について

漢書地理志通黄支国考

魏晋仏教の展開

仏教信仰に基きて組織せられたる

中晩唐五代時代の社邑に就きて

(下)

ヨロッパの問題―ヨロッパ史

研究の一つの立場についての試

論

多羅尾氏に就いて

「焮煌二十詠に就いて」

二五巻一号(九七号) (昭和15年1月)

高麗と明との場合

成立期の近代国家(中)

近世思想史に關する一考察

羅馬家族制度の変遷

神護寺文書に就いて

資料神護寺文書(一)

北山 康夫

長部 和雄

小沢 吉見

角田 文衛

福尾猛市郎

藤田 元春

塚本 善隆

那波 利貞

前川貞次郎

平山敏治郎

神田喜一郎

末松 保和

中山 治一

前田 一良

戸倉 広

田井 啓吾

二五巻二号（九八号）（昭和15年4月）

ギリシア・クラシックの本質と

その表現―主として美術史の領

域から―(一)

村田教之亮

鎌倉時代に於ける神話及び伝説の

発展

村山 修一

ロシア文化の性格―風土との聯関

に於ける―

別枝 篤彦

成立期の近代國家(下)

中山 治一

殷墟侯家荘記

水野 清一

資料神護寺文書(二)

二五巻三号（九九号）（昭和15年7月）

本邦上代高塚の内部構造に就いて

ギリシア・クラシックの本質と

その表現―主として美術史の領

域から―(二)

梅原 末治

村田教之亮

神田喜一郎

松本 解雄

元大徳九路本十七史考

仏教の伝来と其の受容

仏国の琉球開港要求と江戸幕府の

対策

赤尾 藤市

摂河泉地方の糸里制

鏡渡と水嬉と習水戦

島 之夫

資料神護寺文書(三)

長部 和雄

二五巻四号（一〇〇号）（昭和15年10月）

東洋のルネッサンスと西洋のルネ

ッサンス(上)

宮崎 市定

幕末に於ける支那経略論の発展と

その性質(上)

向居 淳郎

船磁石

藤田 元春

中世イタリア・コムネ研究の動

向―オットカール及びプレスナ

塩見 高年

―の所説について―

東洋学書考抄

石浜純太郎

鎌倉日歴に見ゆる経籍

森 鹿三

デュルプヘルト教授の功績―希臘

考古学の六十四年―

角田 文衛

資料神護寺文書(四)

二六巻一号（一〇二号）（昭和16年1月）

南越建國の始末

和田 清

ギリシア人の財産觀念についての

一考察

村川堅太郎

関羽祠廟の由来並に変遷(上)

井上以智為

ネルチンスタ条約の圍境に就いて

増田 忠雄

東洋のルネッサンスと西洋のルネ

ッサンス(下)

宮崎 市定

幕末に於ける支那経略論の発展と

その性質(下)

向居 淳郎

青蓮院について

東伏見邦英

ニコロ・マキアヴェルリ管見(上)

柴山 英一

―特に其の文学的作品について

資料神護寺文書(五)

二六巻二号（一〇二号）（昭和16年4月）

転換期として観る古代埃及第五王

岡島誠太郎

朝

繩紋式文化の性格に關する二二の

藤岡謙二郎

考察

井上以智為

関羽祠廟の由来並に変遷(下)

佐藤 虎雄

祭祀關係遺跡の考察

小野 勝年

石家莊近在の古蹟(上)

原 隨園

ロストフツェフ教授自伝

柴山 英一

ニコロ・マキアヴェルリ管見(下)

原 隨園

―特に其の文学的作品について

柴山 英一

資料神護寺文書(六)

二六巻三号（一〇三号）（昭和16年7月）

ディオオヌソス精神

原 隨園

印度西北國境の考察

野間 三郎

日米仮通商条約調印問題を纏る井

赤尾 藤市

伊大老と水戸藩一派との抗争

石浜純太郎

東洋学書考抄補遺

小野 勝年

石家莊近在の古蹟(下)

岡田芳三郎

南京中華門外雨花台の六朝古墓

澄田正一

資料神護寺文書(七・完)

二六巻四号（一〇四号）（昭和16年10月）

満鮮諸族の始祖神話に就いて

澄田正一

—その境域性と歴史的意義の究

明一(一)

読宋事私議

明末に於ける喀爾喀と泰寧

前カトリック期の異邦人基督教に於ける二潮流

李朝末期に於ける二三の日本紀行に就いて(上)

国土計画としての行政区劃問題

遼陵壁画を通して見たる契丹人生活の一面

コ罗纳トウスの本質と成立(上)

宋代の地図と民族運動

度会神道の成立に就いて

朝鮮諸族の始祖神話に就いて

—その境域性と歴史的意義の究

明一(二)

鳥取大雲院蔵伏見天皇宸翰に就いて

三品 彰英

岡崎 文夫

鴛淵 一

辻村 正吾

内藤 雋輔

小葉田 亮

田村 実造

井上 智勇

増田 忠雄

清原 宣雄

三品 彰英

羽田 秀典

朝鮮諸族の始祖神話に就いて

—その境域性と歴史的意義の究

明一(三)

熱帯農業の開発と農業人口餘剰の問題

二七卷三号(一〇七号)(昭和17年7月)

楔形文字法の最古法源資料としてのDura泥章の研究

新疆周辺の交通

占城国仏逝初期王統の研究(中)

朝鮮諸族の始祖神話に就いて

—その境域性と歴史的意義の究

明一(四)

日本春秋考

支那青銅器時代再論—特に彭徳府外の発掘を中心として—

ダンテのイタリア国家観一考

—ImperiumとRegnum Italianum

の問題に就いて—

國衙領と武士

泰国の交通構造—日本地政学の見地より—(上)

占城国仏逝初期王統の研究(下)

李朝末期に於ける二三の日本紀行

三品 彰英

朝永陽二郎

中原与茂九郎

三上 正利

杉本直治郎

三品 彰英

植杉英之助

梅原 未治

平塚 博

清水 三男

藤野 義明

杉本直治郎

に就いて(下)

二八卷一号(一〇九号)(昭和18年1月)

承久中興の御企と源実朝

政治思想史におけるヘシオドス

朝鮮に於ける多梯式高塚古墳に就いて

泰国の交通構造(下)

白衣会に就いて

\*「日本武学史」を読む

\*「日本中世の村落」を読む

二八卷二号(一一〇号)(昭和18年4月)

歴史的実存と実存的歴史—歴史主義に克服の道ありや—

喀爾喀の紗花と宰賽

太良庄の庄民—中世地方生活の一課題—

メラネシアの新生

ギリシアに於ける政治思想史の開

幕

大名領地法の性格

北京の国都的性格—歴史上よりみる—

ダスターフ・コッソナ教授と現代

内藤 雋輔

平泉 澄

原 随園

有光 教一

藤野 義明

長部 和雄

原 随園

赤松 俊秀

高山 岩男

鴛淵 一

田中 稔

村上 次男

原 随園

藤 直幹

田村 実造

独逸考古学界

角田 文衛

日本沿岸に於ける社会の地縁

—主として海村を中心としてみる—

中田 栄一

二八巻四号(一一二号)(昭和18年10月)

安南清化省東山出土の桶形銅器

梅原 末治

暹和羅国考

山本 達郎

法王設定境界線問題に関する考察

—近世ヨーロッパ膨脹史上の問題—(上)

前川貞次郎

白濠主義—成立とその歴史的發展

開—

河地 貫一

旧事紀の成立に就いて

河野 國雄

二九巻一号(一一三号)(昭和19年2月)

唐令及び養老の令に見ゆる課口と

不課口

曾我部静雄

一遍上人の時宗に就て

赤松 俊秀

地政学者としての頼山陽

内田 秀雄

法王設定境界線問題に関する考察

—近世ヨーロッパ膨脹史の一問題—(下)

前川貞次郎

二九巻二号(一一四号)(昭和19年5月)

百年戦争勃発の事情に就いて

山中 謙二

山里の茶屋と学問の日本の形態

堀内他次郎

近時所見の漢以前の古鏡

梅原 末治

二九巻三号(一一五号)(昭和19年8月)

地方教会(Landeskirchenamt)

の伝統

鈴木 成高

世説新語の機智的性格

村上 嘉実

家老(上)

平山敏治郎

ペルシア湾—英国支配の成立と其

の展望—

船越 謙策

二九巻四号(一一六号)(昭和20年1月)

メガロン考

村田敦之亮

北斉律令制定考

内田 吟風

ナポレオン戦争とフランスの工業

豊田 堯

家老(下)

平山敏治郎

三〇巻一号(一一七号)(昭和20年3月)

平安京変遷の地理的考察

小牧 実繁

胥吏の陪備を中心として—支那官

宮崎 市定

吏生活の一面—

兼岩 正夫

“Constitutio in favorem principum”考

兼岩 正夫

三〇巻二号(一一八号)(昭和20年4月)

明の時代性について—太祖の統治

田村 実造

方針を中心とする—

篠崎 勝

建武中興と大燈夢窓両国師

篠崎 勝

ピロビヤン猶太人植民地—特に

その設立の意義に就いて—

岡本信太郎

マニフェスト・デスティニー—

九世紀末米國太平洋政策の—原

動力について—

今津 晃

三〇巻三号(一一九号)(昭和20年9月)

ギリシアに於ける歴史学の展開

原 隨園

本邦古墳出土の同範鏡に就いての

一一の考察

梅原 末治

平安京に於ける受領の生活

林屋辰三郎

晩唐時代の撰述と考察せらるる茶

那波 利貞

に関する通俗的滑稽文学作品

三〇巻四号(一二〇号)(昭和20年11月)

銅鑄考

梅原 末治

蒙古史の側面としてのロンシア

—モスクワ王国の成立過程への

考察—

日本儒学独立の地盤

愛宕 松男

三一卷一号(一二一号)(昭和21年1月)

漬談

宮崎 市定

ツクディデスの古代史に就いて

原 隨園

日本中世に於ける歴史記念物の発

生とその意義

村山 修一

三二卷二号 (一二二二号) (昭和22年5月)

徭役と課税と復除

曾我部静雄

所謂「民族移動」の歴史的意義

井上 智勇

三二卷三・四号 (一二二三号)

(昭和22年12月)

法隆寺の金堂と塔

浅野 清

農業地域に関するエンゲルブレヒトの業績

織田 武雄

太平乱に於ける清朝の外国に対する援助要請

外山 軍治

アメリカ史学に於ける「科学学派」について

今津 晃

三三卷一号 (一二四号) (昭和23年10月)

アリステテレスの理想国家論について

原 随園

北部仏印の青銅器時代について

梅原 末治

東方史の構造とその展開

田村 実造

威儀—周代貴族生活の理念とその儒教化—

貝塚 茂樹

ソロモン王のオフィルの航海について

織田 武雄

平安京の経済

柴田 実

三國干渉と英独關係

中山 治一

最近国史学界の動向

藤 直幹・直木孝次郎

三吉 希・高尾一彦  
柴田 実

三二卷二号 (一二五号) (昭和24年10月)

アリステテレス「ピュティア優勝者録」とデルブホイの碑文

唯水史観

粟野頼之祐

神棚と仏壇

森 鹿三

山城園葛野・乙訓両郡条里補考

平山徹治郎

東洋史学界の動向

東京大学史料編纂所  
土地制度研究会

近代精神の系譜—朱子学の世界観とその歴史的位置—

村上嘉実・池田 誠  
里井彦七郎

三三卷一号 (一二六号) (昭和25年1月)

フランス革命と基督教

豊田 堯

京都市に於る地下水の陸水学的研究

石田 一良

清代の械闘の一考察

吉田 敬市

アメリカにおける東洋史学研究的動向—ウィットフォード

北村 敬直

「中国征服王朝理論」その他—

田村 実造

終戦後我國に於る西洋史の動向—特に社会経済史学を中心に—

越智武臣・広実源太郎  
衣笠 茂

具塚 茂樹  
岩田 慶治

\* 内藤虎次郎著「支那史学史」

\* 飯塚浩二著「人文地理学説史」

\* 清水三男著「中世荘園の基礎構造」

\* 村川堅太郎著「羅馬大土地所有制」

\* 増田四郎著「西欧市民意識の形成」

高尾 一彦  
岡部 健彦

三三卷二号 (一二七号) (昭和25年4月)

中国上代は封建制か都市国家か

シヌメール人の家族に就いて

—血族と称呼との考察—

中原文茂九郎

上代地方家族存在形態の一考察

近畿の歴史的都市とその変貌

—人口を中心としてみた場合—

藤岡謙二郎

終戦後我國に於る考古学の動向

—坪井清足・横山浩一・樋口隆康

\* Margit Bylin-Althin: The Site of chi Chia Ping 齊

家坪 and Lo Hang T'ang 羅漢堂 in Kansu 甘肅

\* J. G. Anderson: The Site of Chu Chia Chai 朱家寨 Hsi Ning Hsien 西寧泉, Kansu 甘肅

\* J. G. Anderson: Prehistoric Site in Honan 河南

小林行雄・横田 健一

藤岡謙二郎

樋口隆康

坪井清足・横山浩一

羅漢堂 in Kansu 甘肅

\* 井上光貞著「日本古代史の諸問題」 直木孝次郎

\* 村田教之亮著「エーゲ文明の研究」衣笠 茂

\* 重沢俊郎著「原始儒家思想と経学」村上 嘉実

\* 室賀信夫著「アメリカ国土論」 河野 通博

三三卷三号（一一八号）（昭和25年6月）

東亜に於ける銻帶金具とその文化

的意義 樋口 隆康

西アフリカに於ける二つの交易形

態 岩田 慶治

古墳時代における文化の伝播（上） 小林 行雄

清代山東省の官制陸上交通路 河野 通博

終戦後我が国における人文地理学

の動向 織田 武雄 水津 一朗

藤岡謙二郎・川喜田二郎

田辺賢一郎・木地 節郎

君塚 進・石川 榮吉

\* 戸谷敏之著「近世農業経営史論」宮川 満

\* 西水牧郎著「日本の農業—その

経済地理学的研究」 藤岡謙二郎

\* 細野重雄著「アメリカ農業の機

械化」 織田 武雄

\* 田中耕太郎著「ラテン・アメリカ

カ史概説」 K · H

\* 自然史学会編「原始時代の生活」横山 浩一

\* 橋樑著「中国革命史論」 里井彦七郎

三三卷四号（一二九号）（昭和25年8月）

中世の世界図に就いて 織田 武雄

平安時代の農民—特に田堵・名主

について— 宮川 満

シナ中世貴族政治の成立について

古墳時代における文化の伝播（下） 小林 行雄

日本中世研究の一動向 井ヶ田良治

\* 林健太郎著「ロシア農業改革

とユンカー経営の発展」 広実源太郎

\* 宮崎市定著「雍正帝」 岩見 宏

\* 中村二柄著「芸術精神史研究」 石田 一良

\* Die Frankfurter Altstadt,

eine historisch-geographische

Studie von Karl Nahrgang 水津 一朗

\* 原田淑人編「日本考古学入門」 樋口 隆康

三三卷五号（一三〇号）（昭和25年10月）

殷代に於ける祖先の祭祀について 岡田芳三郎

中世におけるギリシア語とラテン

語の問題 兼岩 正夫

我が律令時代の里と郷とについて 曾我部静雄

東洋史学界の動向 佐藤圭四郎

\* 小島祐馬著「中国の革命思想」 石黒 俊逸

\* 安田元久著「初期封建制の構成」黒田 俊雄

\* 堀江英一著「西洋経済史」 田村 満穂

\* Ernst Hüttnann: Verkehrs-

Geographische Probleme am

Beispiel der Eisenbahnen

Schleswig-Holsteins

春日 茂男

三三卷六号（一三二号）（昭和25年11月）

北陸門徒の関東移民 五来 重

ジョン・ディッキンソンのえらん

だ道—アメリカ独立革命におけ

る一糧健派について— 今津 晃

ヨーロッパ村落の生態—集落及び

農地の社会的機能について— 水津 一朗

宋代解州官宮塩業の構造—その支

配と隸屬— 池田 誠

西洋史学界の動向 浅香 正・中村賢二郎

松浦家文庫の海外交通史料につい

て 田村 満穂・秋山 博愛

\* 宮出禿雄著「都市近郊農業論」 小葉田 淳

\* 松田智雄著「イギリス資本と東

洋」 北村 敬直

\* 「北九州古文化図鑑」第一輯 有光 敬一

\* 服部之総著「続親鸞ノート」 松山 宏

\* Felix Pontell: La Monarchie

parlementaire, 1815-1848 合田 裕作



三四巻一・二号 (一三二号)  
(昭和26年2月)

〈概業特観〉

撰津平野郷に於ける綿作の發展 高尾 一彦

ロンドン新冒險商人組合の設立  
—所謂「オールドマン・コ  
ケインの企画」なる事件につ  
いて—

小松絹の發展 星田 輝夫

古代中国の機械技術 岩井 忠熊

アルタイ・バズイルイク第二号墳 大田 英蔵

の調査 角田 文衛

\* ジュオンデ・ロングレイ著「鎌  
倉時代」資料編第三巻古文書 牧 健二

\* 和歌森太郎著「中世協同体の研  
究」 柴田 実

\* オーエン・ラティモア著・小川  
修訳「中国」 池田 誠

三四巻三号 (一三三号)  
(昭和26年7月)

上代日本における乗馬の風習 小林 行雄

奈良時代における浮浪について 直木孝次郎

チュルク族の始祖伝説について 岡崎 精郎

—沙陀朱耶氏の場合—

最古のルースカヤ・プラエヴダ  
—本文とその説明— 河村 盛一

日本民俗学界の動向 平山敏治郎

日本古代史研究の一動向 東 晶

\* 羽田博士頌寿記念「東洋史論叢」外山 軍治

三四巻四号 (一三四号)  
(昭和26年8月)

近世銀山の領有機構—院内銀山の  
研究(一)—

グプタ朝(西紀四—八世紀) 印度 小葉田 淳

社会の一考察(上) 佐藤圭四郎

ドイン帝国と文化闘争 広東源太郎

氣候馴化論の学史的背景—十九世  
紀末葉に於ける当論研究の目的— 和田 俊二

中国封建社会への展望 池田 誠

\* 宮崎市定著「東洋的近世」 荒木 敏一

\* 牧健二著「近代における西洋人  
の日本歴史観」 柴田 実

\* 米村嘉男衛著「モヨロ貝塚資料  
集」 坪井 清足

三五巻一号 (一三五号)  
(昭和27年5月)

フランス革命と人権宣言 前川貞次郎

老荘の自由思想 村上 嘉実

明治教育史の思想的背景 大石 良材

\* 中沢見明著「真宗源流史論」 赤松 俊秀

\* 石田一良著「文化史学の理論と  
方法」 中村 二柄

\* C. P. Loomis, J. A. Beegle:  
Rural Social System 木地 節郎

\* H. Meyer: Karl Marx und  
die deutsche Revolution  
von 1848 岡部 健彦

三五巻二号 (一三六号)  
(昭和27年8月)

越前國東大寺領庄園の經營 岸 俊男

溜池灌漑地域に於ける用水分配と  
農村社会—讃岐仲多度郡買田池  
懸りを中心として— 喜多村俊男

奈良と堺—荘園領主都市と港灣都  
市との關係— 永島福太郎

グプタ朝(西紀四—八世紀) 印度 佐藤圭四郎

社会の一考察(中)

史学研究会春季大会報告「歴史地  
理教育の諸問題」 門脇 禎二

\* 梅原隆章著「大鏡成立論攷」 門脇 禎二

\* 仁井田陞編「近代中国の社会と  
経済」 里井彦七郎

\* R. Bloch: L'Etruscologie 浅香 正

\* 小林行雄著「日本考古学概説」 藤沢 長治

三五巻三号 (一三七号)  
(昭和27年10月)

開込運動を回る英國農民事情—十  
六世紀ヨーロッパの問題— 越智 武臣

ミヤケの史的位置 門脇 禎二

龍について 林 巳奈夫

唐代の藩鎮について—浙西の場  
合— 谷川 道雄

\*伊東多三郎著「日本近世史」(二) 三吉 希  
 \*仁井田陞著「中国法制史」 間野 潜龍  
 \*L. Timmerman: Das Eupener Land und seine Grundlandwirtschaft 水津 一朗

三五卷四号(二三八号)(昭和28年3月)

共同研究<日清戦争 梅溪 昇  
 西村 睦男  
 北村 敬直  
 姜 在彦  
 有光 教一

朝鮮石器時代の「すりうす」 平田 嘉三  
 最近の一八四八年研究(フランス) 赤松 俊秀  
 藤沢市清淨光寺の時衆過去帳 時野谷 勝

\*大塚武松著「幕末外交史の研究」 高尾 一彦  
 \*藤田五郎著「封建社会の展開過程」

\*O. Halecki: The Limits and Divisions of European History 前川貞次郎  
 \*二つの文化変動理論 石川 栄吉

\*最近の考古学の発掘報告書 小川 行雄  
 樋口 隆康・坪井 清足  
 横山 浩一・藤沢 長治

三六卷一号(二三九号)(昭和28年5月)

近世銀山の生産の形態と組織—院

内銀山の研究(Ⅱ)——佐藤直方の学問論—朱子学的思考の一形式— 小葉田 淳  
 三吉 希  
 宮川 尚志  
 坪井 清足

福島県天王山遺跡の弥生式土器—東日本弥生式文化の性格—Landständeの形成と領邦国家の発展 中村賢二郎

股代の奴隸制度と農業—とくに呉、瀧戸内海総合研究会編「備中国新見庄史料」 中島 健一  
 榎瀬 勝

\*G. Ritter: Europa und die Deutsche Frage 岡部 健彦  
 \*川崎庸之著「奈良仏教の成立と崩壊」 高取 正男

\*若林喜三郎・山上青年団編「山上村小史」 小池 洋一

三六卷二号(二四〇号)(昭和28年7月)

宋代州県制度の由来とその特色—特に衙前の変遷について— 宮崎 市定  
 明治以後の京都市域形成に関する都市地理学的考察 藤岡謙二郎  
 グプタ朝(西紀四〜八世紀) 印度社会の一考察 佐藤圭四郎

カエサル遺産相続人としてのオ

カタウイウス L・ブラウン  
 滋賀県野洲郡祇王村宮山古墳発掘概報 金関 恕  
 小野山 節

\*西岡虎之助著「荘園史の研究」(上) 赤松 俊秀  
 \*V. K. Yatsunsky: Promyshlenny Perevorot v Rossi 岡本 哲男

三六卷三号(二四一号)(昭和28年9月)

Lombardverbotの成立とロンバルクの国際体制 岡部 健彦  
 村落を構成する同族祭団—丹波国於乎岐村の株と株譚— 竹田 聰洲  
 齊家期について—中国先史時代の一研究— 藤沢 長治

読史方輿紀要とその地域論 海野 一隆  
 山城国相楽郡高麗村榛井大塚山古墳調査略報 樋口 隆康

\*北山茂夫著「万葉の世紀」 上田 正昭  
 \*W. E. Le Gros Clark: History of the Primates 有光 教一

\*Frederick Johnson: Radiocarbon Dating 有光 教一  
 \*Max Sorre: Les Fondements de la Géographie Humaine 末尾 至行

三六卷四号(一四二号)(昭和28年10月)

鎌倉仏教における「一向専修」と

「本地垂迹」

上代紀年に関する新研究

南北朝戦争の南部再建政策の展開

—ジョンソンを中心として—

マライシア島嶼圈における海上交

通の研究

日本外史の清版とフランス訳

\*宮下孝吉著「ヨーロッパにおけ

る都市の成立」

\*George Rude: Les ouvriers

parisiens dans la révolution

française

\*「李朝実録」第一冊

三七卷一号(一四三号)(昭和29年2月)

座について

ドイツ農民戦争における富農層に

ついて

エーゲ文明研究の近況について

—やや問題的に—

文化圏説の初期—オセアニア研究

における—

\*林屋辰三郎著「中世文化の基調」

上横手雅敬

\*村山修一著「日本都市生活の源流」石田・善人

黒田 俊雄

笠井 倭人

山岸 義夫

別枝 篤彦

石原 道博

牧 健二

前川貞次郎

小葉田 淳

赤松 俊秀

瀬原 義生

村田教之亮

石川 栄吉

横山 浩一・金関 恕

坪井 清尼

小野 勝年

竹田 晴淵

西村 元佑

浮田 典良

小林 行雄

隆康

真治

押野 昭生

宮崎 市定

中村 二柄

滝川政次郎

\*多賀秋五郎著「唐代教育史の研究」狩野 直積  
\* S. Bernstein: The Opposition  
of French Labor to American  
Slavery 山本 幹雄

三七卷二号(一四四号)(昭和29年4月)

固有信仰の展開と仏教受容

チャムベの名に探る—インド早期

移民の故郷—

神仏関係の一考察

都市貴族の起源について—中世都

市成立論と関連して—

城下町の人口構成—彦根藩の歴史

地理的研究—

肥前永田遺蹟弥生式甕棺伴出の

鏡と刀

\*田村実造・小林行雄著「慶陵」

\*堀一郎著「我が国民間信仰史の

研究」

\*宇都宮清吉著「債約研究」

\* Erich Oemba: Allgemeine

Agrar- und Industriegeog-

raphie

\*最近の日本考古学の発掘報告書

坪井 清尼

藤沢 長治・川端 真治

横山 浩一・金関 恕

山本 幹雄

高取 正男

杉本直治郎

田村 円澄

鯖田 豊之

矢守 一彦

坪井 清尼

金関 恕

小野 勝年

竹田 晴淵

西村 元佑

浮田 典良

小林 行雄

隆康

真治

押野 昭生

宮崎 市定

中村 二柄

滝川政次郎

樋口 隆康

豊田 堯

木村 宏

佐伯 富

小葉田 淳

田中 勝蔵

浮田 典良

川畑 真治

三七卷三号(一四五号)(昭和29年6月)

明代蘇松地方の士大夫と民衆—明

代史素描の試み—

美術史の自律について

法王と法王宮職

京都府竹野郡網野町小浜・岡古墳

調査略報

\*金沢誠著「フランス史」

\* J. E. Spencer: Land and

People in Philippines

—Geographic Problems in Rural

Economy—

三七卷四号(一四六号)(昭和29年7月)

明代の票法—明代塩政の一齣—

銀生産の動向(一)—院内銀山の

研究(Ⅲ)—

剣・鏡・玉・矢の呪的性格

宇治茶業に関する若干の地理学的

考察

—フアンストリートの解説

\* J. Gernhuber: Die

Landfriedensbewegung in

Deutschland bis zum Mainzer

Reichslandfrieden von 1235

\* W. Smith: An Economic

Geography of Great Britain

宮崎 市定

中村 二柄

滝川政次郎

樋口 隆康

豊田 堯

木村 宏

佐伯 富

小葉田 淳

田中 勝蔵

浮田 典良

川畑 真治

押野 昭生

佐伯 富

小葉田 淳

田中 勝蔵

浮田 典良

川畑 真治

押野 昭生

佐伯 富

小葉田 淳

田中 勝蔵

浮田 典良

川畑 真治

押野 昭生

\* 村田正志編「証註樺葉記」 赤松 俊秀

\* 伏見稲荷大社「稲荷大社由緒記 集成」 祠官著作篇 黒田 俊雄

三七卷五号（一四七号）（昭和29年9月）

いわゆる印紙条例一撰について

—社会運動としてのアメリカ革命 命を主要な観点として—（上） 今津 晃

中国股代の櫛に就いて 梅原 末治

神武東征伝説の史実性試論 牧 健二

武官村の股代大墓 岡田芳三郎

\* 古島敏雄・永原慶二著「商品生産と寄生地主制」 脇田 修

\* 仁井田陞著「中国社会の法と倫理」池田 誠

\* 二つの都市調査報告書 木下 良

三七卷六号（一四八号）（昭和29年10月）

散所 その発生と展開—古代末期の基本的課題— 林屋辰三郎

蒙古朝治下における漢人世侯—河朔地区と山東地区の二つの型— 井ノ崎隆興

いわゆる印紙条例一撰について —社会運動としてのアメリカ革命 命を主要な観点として—（下） 今津 晃

鑑より見たる近世中国山村の社会経済構造—石見国波佐村庄屋文書を中心として— 庄司 久孝

\* 吉田敬市著「朝鮮水産開発史」 河野 通博

\* 西岡虎之助著「日本文学における生活史の研究」 黒田 俊雄

三八卷一号（一四九号）（昭和30年1月）

古墳の発生の歴史的意義 小林 行雄

アメリカ旧南部における非奴隸所 有農民—第二次アメリカ革命の構造把握のために—（上） 山本 幹雄

三國呉の政治と制度 宮川 尚志

軍人勅諭の成立と西周の憲法草案（一） 梅溪 昇

\* 京都府教育委員会「醍醐寺新要録」 柴田 実

\* J. G. D. Clark: Prehistoric Europe—The Economic Basis— 藤岡謙二郎

三八卷二号（一五〇号）（昭和30年3月）

ビュテアスとトウール 織田 武雄

アメリカ旧南部に於ける非奴隸所 有農民—第二次アメリカ革命の構造把握のために—（下） 山本 幹雄

ルネサンス研究の動向に関する一考察 柴山 英一

唐山市賈格荘の戦国墓 金関 恕

軍人勅諭の成立と西周の憲法草案（二） 梅溪 昇

\* 堀江英一著「明治維新の社会構造」朝尾 直弘

\* 京都大学東洋史研究会編「中国隨筆索引」 小野 勝年

\* アイリーン・バウア著・三好洋子訳「中世に生きる人々」 越智 武臣

三八卷三号（一五一号）（昭和30年5月）

九州古墳の性格 樋口 隆康

江戸幕府元文の貨幣改鑄 伊東多三郎

成化時代の伝奉官について 谷 光隆

軍人勅諭の成立と西周の憲法草案（三） 梅溪 昇

\* 杉浦明平著「ルネサンス文学の研究」 永井 三明

\* 末松保和著「新羅史の諸問題」三品 彰英

\* H. Lautenschach: Der Geographische Formenwandel Studien zur Landschaftssystematik 矢守 一彦

\* E. Miller: The Abbey and Bishopric of Ely 富沢 靈岸

三八卷四号（一五二号）（昭和30年7月）

パークス非難論争—条約改正史の一齣— 杉井 六郎

その後の課役の解釈問題 曾我部静雄

歴史の原初形態としての呪術神話  
と呪詛における「系譜」への関  
心

池田 源太

チベットのデモクラシーネバ  
ールヒマラーヤの観察から―

川喜田二郎

\* 周藤吉之著「中国土地制度史研  
究」

勝藤 猛

\* 竹内理三編「日本封建制成立の  
研究」

上横手雅敬

\* G・トムソン著・池田薫訳「ギ  
リシヤ古代社会研究」

村田数之亮

三 八 卷 五 号 (一五三三号) (昭和30年9月)

応劭「火耕水耨」注より見たる後

米田賢次郎

漢江淮の水稲作技術について

小葉田 淳

宋太祖酒癖考

荒木 敏一

鶴岡本御成敗式目の四声点並乎古

池内 義實

撰津豊川村南塚古墳調査概報

川端 真治

\* 秦玄龍著「イギリス・ヨーマン  
の研究」

富沢 靈岸

\* 柴田実著「庄園村落の構造」

村井 康彦

\* 尾留川正平編「経済地理」

大島 襄二

\* 藤井駿・水野恭一郎編「岡山県

古文書集」

石田 善人

三 八 卷 六 号 (一五四号) (昭和30年11月)

〈特集 共同体の諸問題〉

天ツ神族・国ツ神族と双分組織  
キタイ氏族制の起源とトーテミズ

三品 彰英

形成期の土地共同体

愛宕 松男

惣について

田中 裕

共同体の地理的規模

石田 善人

中国に於ける水利慣行

水津 一朗

\* 宇都宮清吉著「漢代社会経済史  
研究」

天野元之助

\* 藤岡謙二郎著「先史地域及び都  
市の研究」

有光 教一

神統譜の展開―氏族系譜と神々の  
位置―

杉村 壮三

承久の乱の歴史的评价

末尾 至行

水力エネルギーに関する歴史地理  
―ヨーロッパを中心とする水車  
利用の展開について―

上田 正昭

\* G. Freiherr v. Pölnitz:  
Fugger und Hanse

金城公主の入蔵について(上)

末尾 至行

三 九 卷 二 号 (一五六号) (昭和31年3月)

江南における里甲の編成について

恩寵の巡礼の歴史的性格について

―絶対王制確立期における農民  
闘争の一形態―(上)

小畑 龍雄

最近における敦煌石窟の研究

富岡 次郎

\* 林屋辰三郎著「古代国家の解体」

\* 秋岡武次郎著「日本地図史」

\* 京大西洋史研究室編「備兵制度  
の歴史的研究」

長広 敏雄

\* Chung-ii Chang: The Chinese  
Century: Studies on their Role  
in Nineteens-Century Chinese  
Society

室賀 信夫

三 九 卷 三 号 (一五七号) (昭和31年5月)

田中 裕

ミノア文字解読への過程と影響

北村 敬直

山城の条里と平安京

村田数之亮

恩寵の巡礼の歴史的性格について

米倉 二郎

―絶対王制確立期における農民  
闘争の一形態―(下)

富岡 次郎

金城公主の入蔵について(中)

佐藤 長

\* 飯貝本善寺の葬中陰記

石田 善人

\* 安部健夫著「西ウイグル国史の  
研究」

羽田 明

\* 佐藤進一・池内義實編「中世法  
制史料集」

上横手雅敬

三九卷四号（一五八号）（昭和31年7月）

清代淮南塩販路の争奪について（上）

丹波国宮田荘の研究  
佐伯 富  
田中 稔

最近における殷式遺蹟の研究と発掘（上）

金城公主の入蔵について（下）  
伊藤 道治  
佐藤 長

\* William E. Leuchtenburg:

Progressivism and Imperialism  
志邨 晃佑

\* Pierre Gourou: The Tropical

World, Its Social and Economic Conditions and its Future Status  
佐々木高明

三九卷五号（一五九号）（昭和31年9月）

阿倍比羅夫北征考  
室賀 信夫

百年戦争とフランス民族の形成

—ノルマンディにおける支配と抵抗をめぐって—（上）  
川口 博

清代淮南塩販路の争奪について（下）  
佐伯 富  
鶴岡 静夫

最澄の宗教的特質  
最近における殷式遺蹟の研究と発掘（下）  
伊藤 道治  
田中 彰

\* 関順也著「藩政改革と明治維新」  
田中 彰

\* 田村円澄著「法然上人伝の研究」  
黒田 俊雄

三九卷六号（一六〇号）（昭和31年11月）

〈思想史特集〉

ツキシデスの史学について

原 随園  
隠逸—東晋時代—  
村上 嘉実

修行信証（坂東本）について  
赤松 俊秀

中世思想史における天地創造説の位置  
辻田右左男

都鄙問答の成立—石田梅岩の心学の諸典拠について—  
柴田 実  
山本 四郎

草創期の京都の蘭学について  
オーレル・スタイン—東西交渉史におけるかれの業績—  
岡崎 敬

百年戦争とフランス民族の形成  
—ノルマンディにおける支配と抵抗をめぐって—（下）  
川口 博

史学・地理学・考古学戦後十年の回顧と今後の課題  
\* 前川貞次郎著「フランス革命史研究」  
西井 克己

四〇卷一号（一六一号）（昭和32年1月）

太平記と領主層—南北朝時代における畿内の戦力について—  
井上 良信

墨離軍と遼の対西域関係  
漂流記審談に関する考察  
岡崎 精郎  
高瀬 重雄

中国古銅器における伝世の問題  
岡田芳三郎

\* 宮崎市定著「九品官人法の研究」  
鹿三

\* 田中秀教授古稀記念地理学論文集  
矢守 一彦

四〇卷二号（一六二号）（昭和32年3月）

田堵の存在形態—とくに散田と講作について—  
村井 康彦  
笠井 俊人

日記系譜の成立過程について  
宋代「談馬顔等国」の位置に関して  
木村 宏

均田法の闕宅地について  
洛西広沢古墳発掘調査概報  
曾我部静雄  
樋口 隆康

\* 大阪市立大学難波宮址研究会編  
「難波宮址の研究」  
藤岡謙二郎

\* 河手龍海著「日本塩業史」  
波辺 則文

\* 佐伯富著「清代塩政の研究」  
笹本 重己

\* H. Aubin: Stufen und Triebkräfte der abendländischen Wirtschaftsentwicklung im frühen Mittelalter  
堀内 一徳

四〇卷三号（一六三号）（昭和32年5月）

李大剣の出發—「言治」期の政論を中心に—  
里井彦七郎

江戸時代初頭に於ける教訓仮名抄について—春鑑抄・三徳抄・彝倫抄の思想的系譜—  
今中 寛司

院政と鳥羽維新

村山 修一

\* 渡辺澄夫著「畿内庄園の基礎構

石田 善人

造」  
\* オトレンバ著「敷内芳彦訳

西村 睦男

「一般工業地理学」

初期大和政権の勢力圏

小林 行雄

Vornitz における社会主義

— W. Weiting の思想と位置を

中心にして—

広東源太郎

「麓」集落に関する二・三の検討

押野 昭生

\* 小葉田淳編「岡本村史」

黒田 俊雄

\* 池田源太著「歴史の始源と口承

伝承」

上田 正昭

四〇巻五号（一六五号）（昭和32年9月）

土佐藩における討幕運動の展開

南部の再建とネグロ—伝統的再建

史解釈への一批判—

銀差の成立をめぐる—明代後役

の銀納化に関する一問題—

研究」

山岸 義夫

\* 農村史料調査会編「新田地主の

研究」

\* 小沼勇著「日本漁村の構造類型」

高沢 裕一

\* 佐藤進一・池内義資編「中世法

制史料集」第二巻

島田 正彦  
田中 稔

四〇巻六号（一六六号）（昭和32年11月）

〈特集 文化交流〉

支那の鉄について

六朝隋唐時代の報応信仰

ヒマラヤ及びチベットにおける文

化接触

ルネサンス精神の動揺—二つの文

化圏と世界観の苦闘—

洋学史に関する一考察—渡辺華山

を中心として—

明治後期における実業教育の展開

友愛会の発展過程—第一次大戦下

における内的転換と成長—

\* 唐長孺著「魏晉南北朝史論叢」

\* ハーツホーン著「野村正七訳」地

理学方法論—地理学の性質—

寺内町の構造と展開

紀州における藩政の村の集落構成

と内わけ村—主として日高川流

域について

〈特集 文化交流そのⅡ〉

ナマースガ遺丘—アナウ文化の再

吟味—

宮崎 市定

山崎 宏

川喜田二郎

永井 三明

大月 明

時野谷 勝

中国史の時代区分論展望—日本人

の古代区分

\* Maurice Lombard : L'évolution

urbaine pendant le haut

moyen âge

\* 笠原一男著「親鸞と東國農民」

四一巻二号（一六八号）（昭和33年3月）

勸農政策と占田課田

庄園制解体期の山城国上久世庄

十三植民地の封建遺制—とくにメ

リーランドとニューヨークの土

地制度をめぐる

\* 井上光貞著「日本浄土教成立史

の研究」

\* 山口弥一郎著「開拓と地名」

\* Li chi : The Beginnings of

Chinese Civilization

伊藤 道治

四一巻三号（一六九号）（昭和33年5月）

北魏末の内乱と城民（上）

納所小論—律令的徴税組織の解体

の一断面—

ワイマール共和国前半期における

帝制復興運動をめぐる一考察

—ドイツ国民人民党を中心とし

て—

ドイツの東洋学—附日本学—

内藤 戌申

罇田 豊之

北西 弘

西村 元佑

上島 有

茨木 慶三

田村 円澄

藤岡謙二郎

谷川 道雄

吉田 晶

中村 幹雄

田村 実造

\* 東洋史研究会編「羽田博士史学

論文集」上巻歴史編

榎 一雄

\* 赤松俊秀著「鎌倉仏教の研究」

藤島 達朗

\* 吉村茂樹著「国司制度崩壊に関

する研究」

横田 健一

\* 塩沢君夫・川浦康次著「寄生地

主制論」

中村 哲

\* 山田憲太郎著「東西香菓史」

加藤 保

四一巻四号(一七〇号)(昭和33年7月)

イギリス封建王政の展開について

郷士家の家族的周辺

ヤマト地名考

中国考古学の諸問題(一)

富沢 靈岸

平山敏治郎

中山 修一

水野 清一

伊藤 道治

林 巳奈夫

四一巻五号(一七二号)(昭和33年9月)

古代地方組織発展の一考察―大和

朝廷・皇室の支配を中心に―

畠備四水説の地理思想的考察

―仏典及び旧約聖書の四河説と

の関連―

フリードリッヒ・ナウマンとその

時代―ワイマール・デモクラシ

―成立前史―

北魏末の内乱と城民(下)

八木 充

海野 一隆

三宅 正樹

谷川 道雄

中国考古学の諸問題(二)

\* 相田二郎著「蒙古襲来の研究」

水野 清一

四一巻六号(一七二二号)(昭和33年11月)

〈特集 都市研究〉

ヨーロッパ中世都市―その封建王

政と絶対主義に対する関連にお

いて―

宋代地方小都市の一面―鎮の変遷

を中心として―

蘇・松地方に於ける都市の棉業商

人について

都市における惣的結合の発展―特

に天文の法華一揆を中心として

織豊兩氏の都市支配

近世初頭における京都町衆の法華

信仰

近世城下町プランの発展類型

―序説

シュメール都市国家ラガシュに於

ける神殿の社会組織について

―割当地保有者をめぐって―

中国考古学の諸問題(三・完)

四二巻一号(一七三三号)(昭和34年1月)

近世初頭における畿内幕領の支配

樋口 隆康

上横手雅敬

会田 雄次

梅原 郁

寺田 隆信

豊田 武

永島福太郎

藤井 学

矢守 一彦

山本 茂

岡田芳三郎

構造

第二アテナイ海上同盟の同盟総会

中部アンデスにおける村落共同体

の地理的意義

西夏時代における河西を避ける交

通路

長州藩における慶応軍政改革

ヨーロッパ中世前期の商業

\* 豊田堯著「パプーフとその時代」

\* Aubrey Diller: The Tradition of

the Minor Greek Geography

四二巻二号(一七四号)(昭和34年3月)

アメリカ革命史の歴史

漢代明器泥象と生活様式―長沙

・広州・貴州の場合―

平安初期の国衙と富豪層―国衙領

形成過程の一側面―

守護赤松氏の領国支配と嘉吉の変

\* J・ホイジンガ著・兼岩正夫・里

見元一郎共訳「中世の秋」

\* 石井孝著「明治維新の国際的環

境」

\* 日本史研究会史料研究部会編

「中世社会の基本構造」

四二巻三号(一七五号)(昭和34年5月)

朝尾 直弘

衣笠 茂

佐々木高明

前田 正名

田中 彰

堀内 一徳

河野 健二

高橋 正

今津 晃

岡崎 敬

戸田 芳実

水野恭一郎

会田 雄次

池田 敬正

石田 善人



売買契約泥章から見た初期王朝期

「アッカード王朝期の土地所有

形態

幕末・明治初年における農民層分

解と地主制

圏構造と地域構造―奈良・会津二

盆地を例として―

大化改新と藤原鎌足

漢代の勸農政策―財政機構の改革

に關連して―

\*直木孝次郎著「日本古代国家の

構造」

\*岩生成一著「朱印船貿易史の研

究」

\*「千家尊宜先生還曆記念神道論

文集」

\*A. D. Gayer, W. W. Rostow,

A. J. Schwartz: The Growth

and Fluctuation of the British

Economy 1790-1850

合田 裕作

四二巻四号（一七六号）（昭和34年7月）

中国殷周の古鏡

イギリスにおけるローマタウン

の歴史地理学的性格―その分布、

位置と町割を主としてみた場

合― 藤岡謙二郎

中原与茂九郎

中村 哲

山澄 元

横田 健一

西村 元佑

井上 光貞

林屋辰三郎

柴田 実

ギリシアの世界史像―その形成と

ラテン語世界への伝播―

大唐天宝元年の戸口統計の地域的

考察

蜀漢政権の構造

律令制財政機構の崩壊過程―月料

・要劇料・官田―

\*梅原末治著「殷墓発見木器印影

図録」

\*有光教一著「朝鮮磨製石剣の研

究」

\*塩沢君夫著「古代専制国家の構

造」

\*安藤精一著「近世在方商業の研

究」

四二巻五号（一七七号）（昭和34年9月）

先秦時代の「土」の諸問題

加賀藩の十村・村肝煎制度の成立

過程

コンスタンティノポリスの建設と

その意義

元禄・享保期における前期的資本

の動向―近江日野の豪商、正野

玄三家の場合―

\*松村武雄著「日本神話の研究」

\*北山茂夫著「日本古代政治史の

藤縄 謙三

日野開三郎

狩野 直禎

阿部 猛

岡田芳三郎

三上 次男

吉田 晶

原田 伴彦

河地 重造

若林喜三郎

新田 一郎

西川 嘉男

池田 源太

研究」

\*愛宕松男著「契丹古代史の研究」勝藤 猛

\*マックス・ウェーバー原著・渡辺、

弓削共訳「古代社会経済史」浅香 正

四二巻六号（一七八号）（昭和34年11月）

中世の頼母子について

マグナ・カルタの本質と身分構成

に就いて

ブルターニュにおける散居集落の

構造―レンヌ近郊バッセ村を中

心として―

半済下の庄民生活―若狭国遠敷郡

太良庄―

元代知識人と科擧

\*水野清一著「殷周青銅器と玉」

四三巻一号（一七九号）（昭和35年1月）

日本上古の玻璃

サン・フランシスコ市におけるボ

ス政治の成立―アメリカ現代社

会の出現にかんする一ケース・

スタデイ―

国衙領における領主制の形成

北部ラオスの少数民族―特にヤオ

族に關して―

古代終末期の政情と「玉葉」の記

直木孝次郎

三浦 圭一

金子 光介

谷岡 武雄

井ヶ田良治

安部 健夫

樋口 隆康

梅原 末治

志郷 晃佑

大山 喬平

岩田 慶治

述内容

赤穂藩の塩専売

中村 敏勝  
河手 龍海

\* 松野純孝著「規範—その生涯と思想の展開過程」

上横手雅敬  
脇田 修

\* 宮川満著「太閤検地論」

四三巻二号（一八〇号）（昭和35年3月）

最澄の論証を通じて見た南都教学の傾向（上）

蘭田 香融  
間野 潜龍

明代都察院の成立について

テッサロニカ事件の意義—テオドシウス帝権とアンブロシウス—  
長友栄三郎  
塩見 薫

恩管抄のカナ（仮名）について

封建社会における領主と村落—中世都市研究の反省—  
鮎田 豊之

「邪馬台国問題の解決のために」の補説

牧 健二  
仲村 研

東福寺大工関係の新史料

\* 仁井田陞著「中国法制史研究（刑法3）」  
中谷 英雄  
愛宕 松男

\* 「明代滿蒙史料」

四三巻三号（一八一号）（昭和35年5月）

イングランド国教会成立に関する一考察

ワイマール共和制末期における農民層の政治的動向—シュレンスヴ

植村 雅彦

イヒ・ホルンシュタイン州の場合一

中村 幹雄

一九一九年の日中関係

干拓と漁民—児島湾の場合—（上）  
由比浜省吾  
井上毅の思想的性格  
梅溪 昇

清仏戦争期における日本の対韓政策

トルフアン発見田土文書の性質について—「敦煌吐魯蕃社会経済資料」（上）を読む—  
宮崎 市定  
三浦 圭一

\* 杉山博著「庄園解体過程の研究」

四三巻四号（一八二号）（昭和35年7月）

唐代の塩商  
トウキーデーデースの歴史記述の意図—*artificial area* をめぐって—  
横山 裕男

公田について

最澄の論証を通じて見た南都教学の傾向（下）

干拓と漁民—児島湾の場合—（下）  
由比浜省吾  
近世初頭における都市貴族の生活  
村山 修一  
鳥羽徹正範俊解

\* 織田武雄著「古代地理学の研究」

—ギリシア時代—  
秋宗 康子

\* 増淵龍夫著「中国古代の社会と国家」

野間 三郎  
河地 重造

\* 田村円澄著「日本仏教史研究」（浄土教篇）

児玉 識

\* 大江志乃夫著「明治国家の成立」

池田 敬正  
四三巻五号（一八三号）（昭和35年9月）

画文帯神獸鏡と古墳文化

地理学の木質  
樋口 隆康  
宮川 善造  
余戸論  
新野 直吉

『イーゴリ遠征物語』における「ルーシ」という言葉について

交代寄合美濃衆について—特に西高木家—  
木崎 良平

中世今堀郷の農民構造と延暦寺フランス革命における地主制の問題

日置弥三郎  
黒川 正宏

\* 上田正昭著「日本古代国家成立史の研究」

八木 充  
朝尾 直弘  
服部 春彦

\* 宮本又次編「藩社会の研究」

\* Carlos Quirino: Philippine Cartography  
室賀 信夫

四三巻六号（一八四号）（昭和35年11月）

地理的認識過程よりみたロシアと北東アジア  
押野 昭生  
狩野 久

品部雑戸制の再検討

中世・日鮮交渉と高麗版蔵経—大和・円成寺栄弘と増上寺高麗

和・円成寺栄弘と増上寺高麗

版！

唐代府兵制度拾遺

堀池 春隆  
菊地 英夫

英国地方史研究文獻(一)―イイ

越智 武臣

スト・ライディング・オヴ・ヨ  
ーキングの場合―

岸 俊男

\* 奈良国立文化財研究所編「川原  
寺発掘調査報告」

維新前後の領主支配と農民階級

有泉 貞夫

―甲州田安領について―

田原 嗣郎

幕末国学思想の一類型―大國隆正  
についての断面的考察―

宮川 尚志

六朝時代の巫俗

山内 正博

南宋の四川における張浚と呉玠  
―その勢力交替の過程を中心と  
して―

ビョックの立場―十五世紀中  
葉における宗教論争について  
―(上)―

松浦 道一

\* 安田元久編「日本封建制成立の  
諸前提」

工藤 敬一

近世畿内農業と牛流通―河内  
駒ヶ谷市を中心に―(上)

酒井 一

いわゆる「日本型資金体系」およ

び「日本型労働組合」の端緒的  
成立―第一次大戦後における八  
時間労働日制の実現をめくつ  
て―

佐々木隆爾

西魏時代の敦煌計帳戸籍に関する  
二・三の問題

西村 元佑

ビョックの立場―十五世紀中  
葉における宗教論争について  
―(下)―

松浦 道一

東国出身の防人達

曾我部静雄

\* 門脇禎二著「日本古代共同体の  
研究」

塩沢 君夫

\* J. Keith Horsfield: British  
Monetary Experiments  
1650-1710

合田 裕作

\* 藤岡謙二郎著「都市と交通路の  
歴史地理学的研究」

谷岡 武雄

室町時代の興福寺領荘園について

熱田 公

近世畿内農業と牛流通―河内駒ヶ  
谷市を中心に―(下)

酒井 一

居延漢簡とくにウラン・ドルベル  
ジン出土簡について

森 鹿三

近世日本地理学の性格と現代への  
意義―山片蟠桃・司馬江漢を中  
心にして―

小野 菊雄

アメリカ史学に見える保守主義の  
大勢―ジョン・ハイアムの論文  
より―

今津 晃

東と西との結び方

越智 武臣

\* 中国古代史研究会編「中国古代  
史研究」

永田 英正

四四卷四号(一八八号)(昭和36年7月)

保証刀禰について

秋宗 康子

北宋期・兩浙路の土地所有の問題  
について

河原 由郎

スバルタの制度とリュクルゴス伝  
説―立法伝説の形成とその時  
期―

新村祐一郎

歴史時代における長地型耕地考  
―主として北西ヨーロッパのば  
あい―

水津 一朗

佐賀藩の点役方小庄屋

城島 正祥

三司使の成立について―唐宋の変  
革と使職―

礪波 護

\* 原田伴彦著「日本封建制下の都  
市と社会」

松山 宏

\* 大阪歴史学会編「封建社会の村  
と町」

中村 哲

\* 別技篤著「東南アジア諸島の  
居住と開発史」

石川 栄吉

四四巻五号（一八九号）（昭和36年9月）

公營田と調府制—貢納制から交易制へ—

敦煌の寺戸について  
十五世紀フィレンツェのプラトニズム

シユトレーゼマン外交とヴァイマル共和政の安定

『大閣検地論』の批判に答える  
\*「高千穂・阿蘇—神道文化綜合學術調査報告—」

\*京都大学文学部東洋史研究室編  
「東洋史辞典」

\* W. O. Henderson : The State and the Industrial Revolution in Prussia 1740-1870

\* 宗像神社復興期成会編「沖ノ島・続沖ノ島」

\* 「月の輪古墳」編集部編「月の輪古墳」

四四巻六号（一九〇号）（昭和36年11月）

近世後期の地主経済—河内国古市郡駒ヶ谷村真銅家の場合—

南宋の類省試

村井 康彦

笠沙 雅章

片山 佳子

野田 宣雄

宮川 満

牧 健二

布目 潮瀧

大島 隆雄

樋口 隆康

横山 浩一

宮下美智子

荒木 敏一

チャーチスト運動の歴史像

—特にランカンチャーを中心として—

「ルーン」に関するイブソフ・ホル

ダドベーの記事について

『柴田剛中歿行日載』より

A・D一三七年の「バルミラ関税法」について

\* 本願寺史編纂所編「本願寺史第一巻」

\* R. J. C. Butow : Tojo and the Coming of the War

\* 米倉二郎著「東亜の集落」

四五巻一号（一九一号）（昭和37年1月）

『元和新定書儀』と杜有普の編する『吉凶書儀』とに就いて

遺隔地荘園の支配構造—鎮西島津荘における領家支配の変遷—

ソリッド・サウスの形成—アメリカ南部におけるネグロ選挙権剥奪運動—

大和盆地に分布する小字「クラノマチ（ツボ）」の考察—我が平安時代における郡郷等の正倉院追求の一試論—

沖繩久高島の土地制度

村岡 健次

木崎 良平

君塚 進

小玉新次郎

赤松 俊秀

中山 治一

渡辺 久雄

那波 利貞

工藤 敬一

山岸 義夫

足利 健亮

浮田 典良

\* 水戸部正男著「公家新制の研究」  
\* 清水盛光・会田雄次編「封建社会と共同体」

井ヶ田良治

瀬原 義生

四五巻二号（一九二号）（昭和37年3月）

第二—三世紀における倭人の社会に復社について—（上）

オールドキャッスルの乱について—ロラード運動の再考察—

出稼ぎ労働と小作経営—越後頸城地方を例として—

和泉市新発見の大使若経について

慶来慶田城由来記の刊出について

\* 津田秀夫著「封建経済政策の展開と市場構造」

\* 塚本善隆著「魏書釈老志の研究」

四五巻三号（一九三号）（昭和37年5月）

古代天皇の私的兵力について

フェリー内閣と日本

明末の結社に関する一考察—とくに復社について—（下）

十八世紀中葉ロシアにおける労働力市場の性格について

直木孝次郎

彭 沢周

小野 和子

荒武 鉄郎

高沢 裕一

三浦 圭一

喜舎場永珣

三島 格

酒井 一

一八九三年のハワイ政変とその背

景についての一考察

山本 雅邦

村落共同体研究における西洋史学

と地理学の間―鯖田豊之「封建

支配の成立と村落共同体」をめぐって―

水津 一朗

四五巻四号（一九四号）（昭和37年7月）

御成敗式目原文の研究

土佐藩初期藩政の展開と郷土制度

池内 義資

の役割

石羅 嵐夫

産業革命期における北部フランス

の繊維工業

服部 春彦

専用漁業権漁場における共同利益

の諸形態―瀬戸内海域を中心

に―  
河野 通博

中世手工業の二・三の問題―特に

建築生産を中心に―

仲村 研

\* J. Needham : Science and Civilization

in China, Vol. 3.

海野 一隆

四五巻五号（一九五号）（昭和37年9月）

奈良・平安時代の畠制度

龍谷大学所蔵の西域文書と唐代の

均田制  
泉谷 康夫

十六世紀末のホローブ法令と債務

均田制

楊 聯陞

ホローブ

パミールをめぐる交通路

石戸谷重郎

魏志倭人伝における前漢書の道里

酒井 敏明

等書式の踏襲

牧 健二

織豊期における村落共同体の動向

朝倉 弘

―大和今井―大和を中心とする

十五世紀の英国羊毛貿易に関する

一考察―イギリス重商主義の先

尾野比佐夫

駆について―

尾野比佐夫

四五巻六号（一九六号）（昭和37年11月）

「鎌倉殿御使」考―初期鎌倉幕府

田中 稔

制度の研究（1）―

田中 稔

対満政策における西園寺―林路線

田中 稔

から桂―小村路線への転換―日

中山 治一

露戦後の満州問題―

中山 治一

均田法の系譜―均田法と計口受田

田村 実造

制との関係―

田村 実造

叙任権闘争前のテューリッゲンに

早川 良弥

おける貴族支配制

早川 良弥

古鏡より観た日本の上古

梅原 末治

イギリスにおける封建的所領形成

梅原 末治

への一過程―folkland と

bookland―

アメリカにおける中国研究瞥見

富沢 靈岸

\*八木哲浩著「近世の商品流通」

宮崎 市定

朝尾 直弘

四六巻一号（一九七号）（昭和38年1月）

柚工と荘園―伊賀国玉滝・黒田荘

赤松 俊秀

―（上）

赤松 俊秀

慶長元和期の佐賀藩財政

城島 正祥

中国古代における天と命と天命の

宮崎 市定

思想―孔子から孟子に至る革命

宮崎 市定

思想の発展―

宮崎 市定

コンスタンティヌスと太陽宗教

宮崎 市定

―Constantin-Helios問題考―

新田 一郎

Kleisthenes 改革と demos

合阪 学

\*清水博士追悼記念「明代史論叢」

田村 実造

四六巻二号（一九八号）（昭和38年3月）

郡司制展開の諸形態

上田 正昭

柚工と荘園―伊賀国玉滝・黒田荘

上田 正昭

―（中）

赤松 俊秀

清代の捐納と官僚社会の終末（上）

近藤 秀樹

一九二〇年におけるルールの蜂起と

近藤 秀樹

ワイマール連合の退場

中村 幹雄

東北地方における郡の成立

服部 昌之

\*村尾次郎著「律令財政史の研究」

蘭田 香融

四六巻三号（一九九号）（昭和38年5月）

院政期における保成成立の二つの形

河香 能平

態

河香 能平

柚工と荘園―伊賀国玉滝・黒田荘

河香 能平

一(下)

清代の捐納と官僚社会の終末(中)  
ドイツ産業革命の側面―ザクセ  
ン細織物工業における機械制大  
工業化過程―

赤松 俊秀  
近藤 秀樹  
大島 隆雄

英国地方史研究文献(二・完)

―イースト・ライディング・オ  
ヴ・ヨークシアの場合―

訪中旅行記

越智 武臣  
長広 敏雄

\*檀原考古学研究所編「近畿古文  
化論攷」

有光 教一

四六巻四号(二〇〇号)(昭和38年7月)

歴代宝案について  
京研座について  
唐代人民の負担体系における課と  
税の意義―唐律の輸課税物と課  
税用語との関連―

小葉田 淳  
脇田 修

清代捐納と官僚社会の終末(下)  
植民運動前夜の英国経済―十六  
世紀の経済不況とその対応―

西村 元佑  
近藤 秀樹

プロイセン憲法紛争と国民自由党  
の成立  
イランの首都テヘラーン  
中国仏像の源流

越智 武臣

望田 幸男  
織田 武雄

水野 清一  
小林 行雄

\*「平城宮発掘調査報告Ⅰ」

直木孝次郎

四六巻五号(二〇一号)(昭和38年9月)

幕末・維新期における小藩の構造  
とその動向―討幕派第二グループ  
の動向をめぐって―  
ダルマ王の在位年次について  
植民運動前夜の英国経済―十六  
世紀の経済不況とその対応―

藤野 保  
佐藤 長

漢代男子のかぶりもの  
式目註釈書について

越智 武臣  
林 巳奈夫

第六回先史学原史学国際会議

樋口 隆康

四六巻六号(二〇二号)(昭和38年11月)

鎌倉時代の村落結合―丹波国大山  
荘―井谷―  
初期拓跋國家における王権  
アメリカ革新主義運動の成果  
―ウィスコンシンの運動をめぐ  
って―

大山 喬平  
谷川 道雄

武梁祠堂復元の再検討  
歴史における「構造」―西ドイツ  
史学界の一傾向―

志郷 晃佑  
秋山 進午

\*村松繁樹著「日本集落地理の研究」藤岡謙二郎

岡部 健彦

四七巻一号(二〇三号)(昭和39年1月)

原文に忠実な魏志倭人伝の解説

―後漢書の倭国観の誤謬を重点  
とする研究―  
古代僧官考  
魏晉南北朝告身雜考―木から紙  
へ―

牧 健二  
田村 円澄

ケンギル都市同盟について―初期  
メソポタミア史の一問題―  
ウイットセンの北東アジア地図を  
めぐる二三の問題

大庭 脩

\*堀江英一編「幕末・維新の農業  
構造」

船越 昭生

\*野間三郎著「地理学のあゆみ」  
「近代地理学の潮流」

津田 秀夫

四七巻二号(二〇四号)(昭和39年3月)

徂徠学の形成と中国思想―護國隨  
筆を中心に―  
北宋時代の布帛と財政問題―和預  
買を中心に―

今中 寛司

ビザンツにおける「条件の土地所  
有」―十一・二世紀を中心にし  
て―

梅原 郁

デイズレリーの保守主義  
\*岩橋小弥大著「上代史籍の研究」  
同第二集・「上代官職制度の  
研究」

米田 治泰  
村岡 健次

中村 敏勝

\* D. P. Singhal : India and

Afghanistan

勝藤 猛

四七卷三三〇号 (二〇五号) (昭和39年5月)

法体制再編期における「家」制度

と勤労者の家族―特別法と判例

を通して―

藤原 愉子

日中の畿内制度

曾我部静雄

ハルバロス研究序説―クロノロ

ギー―

永井 康規

朱思本の輿地図について

海野 一隆

東寺供僧供料荘における年貢取

体系の発展と停滞

網野 善彦

古代東北の地域中心研究の近業に

よせて

新野 直吉

四七卷四号 (二〇六号) (昭和39年7月)

中世大和における商品経済の発展

脇田 晴子

北魏世宗宣武帝の考課と考格

故福島繁次郎

アングロ・サクソン期の *gatal*

*ryal tax* か

西村 元佑

*feudal rent* か―

富沢 靈岸

安陽考古概観

石 璋如

四七卷五号 (二〇七号) (昭和39年9月)

平安初期の官人と律令政治の変質

佐藤 宗醇

抱朴子の世界 (上)

吉川 忠夫

日本の仏殿における建築空間の特

性

浅野 清

ドイツ政党組織の史的考察 (上)

飯田 収治

歴史の効用について―日本とイギ

野田 宣雄

リスの場合―

望田 幸雄

歴史の効用について―日本とイギ

リスの場合―

植村 雅彦

\* 田村実造編「明代満蒙史研究」

山田 信夫

四七卷六号 (二〇八号) (昭和39年11月)

日本の啓蒙主義の凋落―福沢諭吉

ひろたまさき

の変貌―

吉川 忠夫

抱朴子の世界 (下)

水津 一朗

チューリッゲンにおける集落とカ

飯田 収治

ウ・教区・封建領域について

中村 幹雄

ドイツ政党組織の史的考察 (下)

野田 宣雄

\* 安田元久編「初期封建制の研究」

望田 幸男

上横手雅敬

近世における徴租法の転換―畿内

綿作徴租法を中心として

森 杉夫

インド史の時代区分について (上)

岩本 裕

デーンロー地帯とウェセックス

岩本 裕

―ウェセックス王権による国土

鈴木 利章

統一政策―

大名領国成立期における中心集落

の形成―尾張平野の事例研究に

よる検討―

小林健太郎

所謂「齊民要術巻頭雑説」につい

て

米田賢次郎

\* 脇田修著「近世封建社会の経済

構造」

大石慎三郎

四八卷二号 (二二〇号) (昭和40年3月)

古代の土地売買について (上)

菊地 康明

太平天国の性質について

宮崎 市定

スペクテーターの世界

山口 孝道

一仏国公使の目で見た自由党―サ

ンクイッチ公使書信を中心にし

彭 沢周

て―

スパルタの二王制をめぐる二、三

新村祐一郎

の問題

新井祐一郎

朝鮮初期金属文化に関する新資料

有光 教一

の紹介と考察

村上 嘉実

\* 重沢俊郎著「中国哲学史研究」

船越 昭生

\* 今西春秋著「校注異域録」

船越 昭生

四八卷三号 (二二一号) (昭和40年5月)

味方但馬と割間歩―佐渡金銀山史

小葉田 淳

研究その一―

小葉田 淳

南宋折帛戦をめぐる一考察  
我國近世末期における都市成立の  
基盤について

梅原 郁

武氏嗣画像石「水陸交戦図」の一  
解釈

武藤 直

解

土居 淑子

ドイツにおける労働者階級の政治  
化とその帰結——一八四八年——一  
九一四年——

飯田 収治

\*三品彰英編「日本書紀研究第一  
冊」

柴田 実

\*D. C. Douglas: William the  
Conqueror. The Norman  
Impact upon England

鈴木 利章

四八巻四号(二二二号)(昭和40年7月)

十世紀王朝国家土地制度とその崩  
壊

坂本 賞三

ダヤンカーンにおける史実と伝承  
産業革命以前におけるノルマンデ  
イ綿業の構造

佐藤 長

十九世紀イギリス政治史への一視  
角

服部 春彦

上古の蟬形の珠玉

村岡 健次

\*佐々木潤之介著「幕藩権力の基  
礎構造」

梅原 末治  
高木 昭作

四八巻五号(二二三号)(昭和40年9月)

仁孝学の形成——「同一の原理」と  
「弁証法的思惟」——

三七 正彦

十三・四世紀におけるモンゴル軍  
のインド侵入

惠谷 俊之

サン・シモン、フーリエ対オウエ  
ン——思想形成の仏英比較——

堀井 敏夫

東大寺鎮撰津国猪名庄の歴史地理  
イギリスにおけるマキアヴェリズ  
ムの系譜——ポーリングブルック  
の場合——

渡辺 久雄

\*田村実造著「中国征服王朝の研  
究」(上)

柴山 英一

\*稲葉正就・佐藤長共訳「フウラ  
ン・テプテル」

島田 正郎

四八巻六号(二二四号)(昭和40年11月)

金子 良方

平安期の開発に関する二、三の間  
題

吉田 晶

漢唐間における良家の一解釈  
ツェワン・アラブタンの登場  
アレクサンドロス帝国の形成とキ  
リシア世界——追放者復讐王令——  
但波吉備麻呂の計帳手実をめくつ  
て

片倉 穰

若松 寛

大牟田 章

岸 俊男

四九巻一号(二二五号)(昭和41年1月)

領主と作人——延喜荘園整理令の再  
吟味——

赤松 俊秀

辛亥革命と日本の動向

山本 四郎

呂氏春秋上農等四篇に見える農業  
技術について

大島 利一

急進主義運動におけるランショナル  
ディセンターズの伝統——一八世  
紀イギリス精神史のための覚  
書——

板橋 重夫

我が国中古における溝渠の規模と  
構造およびその労働量——越前東  
大寺領について——

水野 時二

デュルク・ファン・ホッヘンドル  
プの思想と行動——オランダ植民  
史断章——

田淵 保雄

和歌山鳴滝団地古墳群発掘概報

樋口 隆康

吉本 堯俊

四九巻二号(二二六号)(昭和41年3月)

工藤 敬一

九州における均等名体制の成立と  
性格

谷岡 武雄

天龍川下流域における松尾神社  
領池田荘の歴史地理学的研究

林 巴奈夫

中国先秦時代の旗

寺田 隆信

清朝の海関行政について

砂原 教男

カルヴェニズムの発展——「ジネネ  
ーブ」から「アムボアーズ」へ——



京都府北部における最近の古墳発掘調査

堀調査

堤 圭三郎

\*竹中清一・川上雅共著「日本商

業史」

安岡 重明

\*富岡次郎著「イギリス農民一揆の研究」

飯沼 二郎

四九卷三号(二二七号)(昭和41年5月)

性信の血脈文集と親鸞在世集團

—新史料蓮光寺本をめぐって—

アラブ征服期におけるエジプトの

税制について

清水 誠

アメリカ革新主義の精神的風土

—ソーニヤル・ゴスベルにお

けるグラドンの役割—

テューダー革命論争

児玉佳与子

\*芝原拓自著「明治維新の権力基

盤」

後藤 靖

四九卷四号(二二八号)(昭和41年7月)

関東陰陽道の成立

古代の土地売買について(中)

周代の土地制度—とくに新出西周

金文を通じて見た—

村山 修一

古代の土地売買について(中)

菊地 康明

貝塚 茂樹

米田 治泰

価格革命期英国の経済成長—五〇—一六二〇年代—

\*ジュオン・デ・ロングレイ教授

川北 稔

著「多子」について

牧 健二

四九卷五号(二二九号)(昭和41年9月)

室町・戦国期の小早川氏の領主制

古代の土地売買について(下)

田端 泰子

明代茶馬貿易の研究—茶法を中心

として—(上)

菊地 康明

イギリスにおけるグレゴリウス改

革と国家観の世俗化

谷 光隆

—Theocratic Monarchy から

Secular Monarchy—

鈴木 利章

シベリアの狩猟・漁撈民とトナカ

イ飼育

齋藤 晨二

四九卷六号(二三〇号)(昭和41年11月)

儒教の自己変革と民衆—大塩平八

郎について—

宮城 公子

明代茶馬貿易の研究—茶法を中心

として—(下)

谷 光隆

養殖漁村の成立とその地理学的背

景

大島 襄二

天正末期毛利氏の領国支配の進展

と家臣団の構成—「八箇国御時

代分限帳」の分析を中心に—

て— 利高 俊昭

ランカスター朝における庶民院の

立場

尾野比左夫

保存修景計画—歴史的文化遺産保

存の構想—

西川 幸治

井上光貞氏の「邪馬台国の政治構

造」に対する批判

牧 健二

五〇巻一号(二二二号)(昭和42年1月)

多肥集約化と小農民経営の自立(上)

高沢 裕一

「琉球処分」と民族統一の問題—

琉球処分における明治政府の政

策基調の分析を中心に—

金城 正篤

楊泉の思想—合理主義的自然観の

一道標—

内山 俊彦

ガンダーラ仏教美術の展開

エリザベス朝の性格について—

小谷 仲男

つの素描—

植村 雅彦

新中国での原始社会の究明—仰韶

文化をめぐるいくつかの問題—

秋山 進年

五〇巻二号(二二三号)(昭和42年3月)

窓村の起源とその役割(上)

多肥集約化と小農民経営の自立(下)

三浦 圭一

高沢 裕一

均田法における受田と賦課に關す

る一考察―敦煌計帳戶籍の受田

欠少と丁男の位置―

「露・独再保障条約」不更新問題

の再検討

民本主義の誕生―浮田和民を通じ

て―

韓國江原道襄陽郡出土細形銅劍・

細文鏡について

五〇卷三号(二二三号)(昭和42年5月)

蝦夷の叛乱と律令國家の崩壊―元

慶二年の出羽の叛乱を中心とし

て―

惣村の起源とその役割(下)

春秋公羊学の歴史哲学―何休「春

秋公羊経伝解詁」の立場

都市の人口変動とエコノミック・

ベイス・セオリ―

アルマダ戦争と英國政府の態度

五〇卷四号(二二四号)(昭和42年7月)

九世紀における大土地所有の展開

―特に山林原野をめぐって―

いわゆる竹林七賢について

マキアヴェリ研究史に關する一考

柴山 英一

西村 元佑

岡部 健彦

宮本 又久

金 元龍

佐藤 宗醇

三浦 圭一

稲葉 一郎

成田 孝三

浅田 実

丸山 幸彦

丹羽 兎子

朝山 英一

柴山 英一

柴山 英一

ゲルツェンの「ロシア社会主義」

論の成立

奈良時代の浮浪と京畿計帳

\*竹安繁治著「近世封建制の土地

構造」

五〇卷五号(二二五号)(昭和42年9月)

第一次山本内閣の研究

ミルトンにおけるピューリタニズ

ムと自由―寛容思想の形成にふ

れて―

国府と糸里との關係について

山城における弥生式文化の成立

―畿内第一様式の細別と雲ノ宮

遺跡出土土器の占める位置―

奥海印寺瓦窯跡発掘調査概報

井上 昌保

木下 良

佐原 真

吉本 堯俊

桑山 正進

中村 徹也

井上 満郎

五〇卷六号(二二六号)(昭和42年11月)

将門の乱と中央貴族

宋代四川夔州路の民族問題と土地

所有問題(上)

ロバート・ビールとカトリック解

放

松原 広志

長山 泰孝

見城 幸雄

山本 四郎

山本 四郎

井上 昌保

木下 良

佐原 真

吉本 堯俊

桑山 正進

中村 徹也

井上 満郎

佐竹 靖彦

村岡 健次

西谷 正

西谷 正

\*矢野仁一著「中国人民革命史論」

波多野善大